演劇レーベルBö-tanz　第16回公演台本　作/はなださとし

FROM UNDER THE JUNK METAL

THE 2ND ED.

from Under the Junk Metal

-THE 2ND ED.-

思い出は現実より苦い・・・

イジドール・デュカス

主な登場人物

女

雑炊屋「ピンクのワニさん」のねーちゃん。もともとこの雑炊屋はライブハウスだったらしい。恋人であるグラッジ（パンクバンド Dead Swine Industry のギター。パンクバンド Malformed Apes とのライヴバトル中に改造した腕が抜け落ち、それがもとで自殺。）の死後、ライブハウスをたたみ、雑炊屋の経営を始める。ニヒリスティックだが、何故か頼り甲斐もありそうだ。壊れかけのゼンジーの介護もしているみたい。

兄

本名は一堂。元都市管理会議（地下都市の最高行政機関）のディテクティブ。とある事件の後、五年前に City から Under に下り、拾ったガキとともに暮らす。

小僧

Under の路地裏で一堂にに拾われたガキ。おつむの方はちょいと足りないみたいだが、そのかわり常人には比べるべくもない「純粋さ」を持っている。

ゼンジー

その昔、「ゼンジー商会」というコンピュータ・クライム関連の有限会社を経営していたが、稼ぎ頭である「信ちゃん（「老いたる時間」参照）を都市管理会議に殺され、自らも「半分壊れる」という憂き目に会ってしまった。

チャーミー（Charmy）

グラッジとほぼ同時期に右腕を改造した Malformed Apes のギタリスト。バイオデバイスを組み込んだその腕が何時腐って落ちるか戦々恐々としている。このような理由からパンクバンド Malformed Apes は休業状態である。

ハニー（Honey）

Malformed Apes のヴォーカル。今は「クズ拾い」で生計を立てている（いや、立っているのか？）。歌は歌っていないが、「燃えるようなパンク魂」は未だ健在である。

チェリー（Cherry）

Malformed Apes のリズム＆ベース。今は同じくクズ拾い。ハニーとともに ER21 地区（Under の東の外れ）で KITAZAC と呼ばれるバイオコンピュータを探す。

チャタバックス（Chatterbox）

通称チャット。その昔、人気パンクバンド Dead Swine Industry のヴォーカル＆ベースギターであった。グラッジの自殺を止めようとして流れ弾を喰らい、声帯と脳の一部を失う。以降「屠殺者(Slaughterer)」となる。喋れません。

フィアス（Fierce）

元 Dead Swine Industry のドラムス。チャタバックスとともに「屠殺者」となる。決して癒されることのない心の傷が銃の引き金を引く原動力になっているようだ。

鰓瀬（Erase： 黒コートの男）

元都市管理会議のディテクティブ。五年前まで一堂とチームを組んでいた。Under で好き勝手に暴れ回るので、一部からはイレイズという名で忌み嫌われている。とにかく、かなり「危ない人」であることに間違いはない。だって、この地下都市と地上とを隔てる隔壁を開けようとしてるんだもん・・・

00 Wellcome to Under the Junk Metal

薄明かりの舞台の上、一人の若造が「客入れ」をしている。
と、若造は舞台袖に立ち、深々とお辞儀をする。
「Under the Junk Metal へようこそ。」
若造の名前はシロー。ミヤジマ興産の契約社員だ・・・といえば聞こえはいいが、単なる駆け出しのちんぴらといったところだ。だって、あの「ミヤジマ興産」だぜ。Under の数あるマフィアの中でも五本の指に入る有力グループ。無許可の医薬品の販売、フリーベースのディストリビューション、おいしい「しのぎ」をいくつか抱えて、ウハウハだって話・・・ ここ最近じゃコンピューター・クライムの方でも名前が売れてきたらしい。まっ、金儲け上手の新興やくざってことか・・・

シロー　我がミヤジマ興産のエスケイプ・システムは完璧。何の障害も無しに Under に辿り着いただろ？ で、どうだい、ここ Under の第一印象は？ ガラクタ、油の浮いた水たまり、飢えた餓鬼に今にもくたばりそうなじじい・・・City とは大違いだろ？ ここじゃゴキブリやネズミなんかは当たり前、運が良けりゃ人の死体と道端で御対面なんて事になる。まっ、聞いた話じゃ、City の方も相当荒れてきたってことらしいけど、本当かい？ なんていったけ？ ・・・ヤオビクニ、そう、ヤオビクニっていたよな、City の巨大電子頭脳・・・あいつがいかれてからさっぱりなんだって、City も・・・ どんな事情があって、City からこの Under に来る羽目になったかなんて聞きはしないけど、とにかく来ちまったものはしかたねえ。雰囲気は極端に違うだろうが、この Under に慣れてもらうしかないってわけ。で、これだけは知っておいて欲しいんだけど、Under には City と違う約束事がいくつかある。そいつを破れば、かなり高い確率で自分の人生に終止符を打てるってわけ。逆に言やあ、それさえ守ってりゃ、このゴミだめの街で細々と生きていけるってことだ。・・・約束事を教えてくれって？ そう、せっつくなって・・・ 今日は特別にあんたら Under ビギナーのために講師を呼んであるだ。では、拍手でお迎えいたしましょう。我がミヤジマ興産親衛隊のマカベのアニキです。アニキー！

客に拍手を強要するシロー。その背後から一人のやくざが登場する。
ダブルのスーツを華麗に着こなしたその男、マカベである。スーツから邪悪さがにじみ出ている・・・

シロー　アニキはミヤジマ興産一の頼れる男なんだ。何かあったときは・・・
マカベ　シロー、褒めちぎったところで、茶も出ねーぞ。

シロー　すいません・・・

マカベ　・・・本日は当社のエスケープ・システムをご利用くださりましてありがとうございました。誰一人として都市管理会議から咎められることなく、このUnderに来れた事と存じます。(懐からカードを取り出し)で、ID カードの提出はお済みですね。こんなもの Under じゃ何の価値も無いものです。まだの方はシローにお渡しください。さっ、これであなた方は Under の人になれたというわけです。そして、Under に住むものなら誰でも知っている「ルール」を確認しておきましょう。

Under のルールその一・・・（人指し指を頭上にかざし、タメを置く）「携帯電話の電源は切る！」 もとよりここじゃ電波なんてほとんど届きはしねえが・・・ 切っとくのがマナーだ。

シロー　そうそう、急に鳴り出したら、撃たれたって文句は言えねえ。特にそれが It's a small world だった時にゃ目も当てられねえ事になる。そいつがある物騒な屠殺人のテーマソングだからだそうだ。屠殺人って言ったって、豚殺すわけじゃねえぜ。ヤツは It's a small world をバックミュージック代わりにして人を撃ち殺す。だから、あんたがはからずもそいつ鳴らしちまったら・・・

マカベ　１秒後には鉢の巣っていったところだ。みんなそいつが怖いからな・・・ まっ、噂みたいなもんだけど・・・

シロー　ヤツの It's a small world を聞いて生き残った奴なんかいないから、確かめようがないってわけ・・・ でも、アニキは聞いたことがあるんだよね、ヤツの、チャタバックスの It's a small world!スゲーよ。チャタバックスと会って、まだ命があるって一の・・・

マカベ　まあな・・・ で、Under のルールその二。もう分かってると思うが、「カメラのフラッシュは焚くな！」だ。

と、いくつかの注意事項やお願い事がマカベの口から発せられていく・・・

マカベ　・・・そして、最後のルールは「もう二度とここから出ることは出来ない！」だ。天変地異か何かで、この街の外壁に穴でも開かない限り、もう二度と出ることは出来ない・・・じゃあ、Under での新たなる生活を楽しんでくれ・・・

シロー、拍手をして、客にも強要する。どうやらマカベのお説教も終わったようだ・・・

シロー　アニキ、ありがとうございました。今日は助かりました。

マカベ　・・・City からの落後者の誘導か。一人頭いくらでやってるんだ？

シロー　２５００円、当日参加は２８００円・・・

マカベ　慈善事業か、そりゃ？

シロー　でも、ID も手に入るし、それに Under に入れてから、搾り取るだけ搾り取れるし・・・City から落っこちて来るのにろくな奴なんかいねえよ。すぐにウチに泣き入れてくる。
マカベ　そしたら、ケツの毛までむしっちゃうってわけか・・・
シロー　おいしい「しのぎ」でしょ。
マカベ　まあな。(と、懐から銃を取り出しシローに渡す)
シロー　(銃を受け取って)なんすか、これ？
マカベ　これから、ちょっとした取り引きがある。
シロー　取り引き？
マカベ　ああ。ミヤジマの親っさんまで出張ってくるらしい。
シロー　組長まで？　で、取り引きの相手は？
マカベ　かたぎの男だそうだ。ただ悪い噂があってな・・・　この前、オノ=センダイのところのが何人か殺られただろ？
シロー　そいつが？
マカベ　親っさんはそう読んでるらしい。若いの三十人ぐらい引き連れて、問いただすんだと・・・
シロー　可愛そうに、そいつ・・・
マカベ　そうだな。で、おれたちも同行せよって命令でね・・・(と、サブマシンガンを取り出す)
シロー　アニキ、それ！？　そんなやべー相手なの？
マカベ　親っさんの杞憂だと思うけど・・・

と背後にミヤジマが現れる。

ミヤジマ　マカベ、来てたか。
マカベ　はい。
ミヤジマ　奴は？
マカベ　まだのようです。でも、ほんとにこんなもん(サブマシンガン)なんか必要なんですかね？　若いのも三十人ぐらい引き連れてきちゃって・・・

と、背後より声がする。「はじめまして、ミヤジマさん。」
振り返ると、舞台後方に黒コートの男が立っている。顔が陰って表情は見て取れない。

ミヤジマ　・・・イレイズか？
黒コート　何と呼んでいただいても結構。カネは用意した。取り引きを始めよう。
ミヤジマ　取り引きと行く前に、ひとつ確かめたいことがある・・・

黒コート　オノ=センダイのことか？　・・・お互いにとって不幸な事件だった。彼らが持ってきたハードウエアはまがい物だった。ミヤジマさん、あなたの所は大丈夫だと信じている・・・

ミヤジマ　私は信頼関係を大切にする。旧タイプのディスク・ドライブにバイオ／エレクトロニック・コンバーター・・・　注文通りだ。

黒コート　さすがだ。あの種のディスク・ドライブをよく見つけれたな。さっ、交換と行こう・・・

黒コートの男が手に持っていたブリーフケースを差し出す。
だがミヤジマは抱えていたアタッシュケースを渡す代わりに、こう言い放った。「奴を狙え！」
三十二本の銃口が黒コートの男に向けられる。

ミヤジマ　・・・イレイズ、私は信頼関係を大切にする。オノと私は旧友でね。Under で生まれ、育ってきた。そして、今でもこの Under でお互い良い関係を保っている。分かるかね？貴様のような City の人間に引っ掻き回されたくない・・・

シロー　City だって？？

ミヤジマ　オノのところへ一緒に来てもらう。

黒コート　ミヤジマさん。まことに残念だが、私も忙しい身でね・・・

と、唐突に It's a small world が安っぽい電子音で流れ始める。
良く見ると舞台後方に人影！　身体中を武器で覆った男。黒いマスクで顔の下半分を隠している。そしてその背後に長い髪の武装した女。チャタバックスとフィアスである。チャタバックスが手にした巨大な拳銃−デザートイーグル−の銃口に卵形の金属を装着する。そして、ゆっくりとデザートイーグルをミヤジマに向ける。It's a small world が鳴り響く。リズムにあわせ銃やその周辺機器に付いた赤や緑の LED が明滅している・・・

マカベ　(声がなかなか出ない)・・・チャ、チャタバックス。

ミヤジマ　なっ、なんだって！？

黒コート　ナパーム・グレネードだ。ここら一帯が火の海になる・・・

ミヤジマ　ナパーム・・・

マカベ　(パニックを起こして、ミヤジマに掴みかかる)・・・てめえ！　何でチャタバックスがいるんだよ！

シロー　どうしたんだよ、アニキ？　こっちは数で勝ってるんだぜ！　チャタバックスごときなんだって言うんだ・・・

シローの銃口が偶然チャタバックスに向く。マカベがそれを見て「ばか！」とシローをたしなめるが、時すでに遅く、チャタバックスの背後に寄り添うように立っていたフィアスの銃口が火をふく。吹っ飛ぶシロー。確かめるべくも無く即死である。
マカベはバッタのように這い蹲って・・・

マカベ　早く、そいつを渡すんだよ！
ミヤジマ　どうした、マカベ？　野郎ども、奴を撃て・・・
マカベ　やめろ！　撃つんじゃねえ！　早く渡せ！　そいつ渡して逃げるんだよ。
ミヤジマ　貴様、なにを・・・
マカベ　お前は何も分かっちゃいねえ・・・　あいつは人間じゃねえんだ。反射的に引き金ひく殺人兵器だ。百人かかったって勝ち目はねえ。ほんとだ。俺は一度殺されかけたから分かる。そん時、俺たちは五十人以上のグループだった。全員サブマシンガン構えてたんだぜ！　でも、一発たりとも・・・　みんな一瞬で撃ち殺された・・・　早くしろ！
ミヤジマ　・・・・・・(狼狽えている)
マカベ　何やってる！　(ミヤジマの手からアタッシュケースを奪い取り、黒コートの男の方へ放り投げる)・・・それがあんたの欲しがってたもんだ。持ってけ。だから・・・
黒コート　・・・カネはいいのか？
マカベ　ああ。だから、早く行ってくれ。頼む。
黒コート　(アタッシュケースを拾い上げ、中を確かめる)・・・ミヤジマさん、確かにあなたは信頼関係を大切にする人のようだ。ばか正直にね・・・
ミヤジマ　・・・・・・
マカベ　(ひとりごちて)なんで、また、こいつらが・・・　悪い夢だ。こいつは悪い夢なんだ・・・
黒コート　(きびすを反し、背中で語る)そう、悪い夢だ。・・・チャタバックス、彼らを悪夢から目覚めさせてあげなさい。
マカベ　やめろー！

チャタバックスのデザートイーグルが火をふく。
ナパーム・グレネードが炸裂し一面が火の海となる。

01 Burial under the ground

ここの外では雨でも降っているのだろうか？
不快なほどの蒸し暑さ・・・まるで絡みつくような湿気だ。
よく見ると舞台上の暗がりに一人の女が立っているのが分かる。
女が呟くように語り始める・・・

女　・・・不意に夢から覚める。最低の夢だ。そう、いつものやつ・・・　棺桶に閉じ込められ、生きたまま埋められる夢。暗闇の中でわたしは一人小さな箱に閉じ込められている・・・

音楽、「The Rain 2000」が静かに流れ始める・・・
舞台の上には捨て置かれた十数台のモニター。
その大小様々なモニターが明滅しながら、または不意に、明るくなる。
雑然とした街並み／薄暗い路地／ゴミ溜め・・・
デジタル処理された映像が揺れ動きながら移り変わっていく。
埃だらけの廃屋／淀んだ水たまり／薄汚れたコンクリートの壁・・・
アルコールに身体の芯まで侵された徘徊者の視点。

中央のひときわ大きな画像には少女の姿が映っている。
リフトで降下でもしているのか顔に照り返った光が下から上へと流れていく。少女は一人の男と手をつないでいる。痩せぎすの貧相な男。少女がその顔をふと見上げるが、男の顔は陰になっていてその表情までは見て取れない。微動だにせず正面を見据える男。そして、その横の少女。少女の一方の手にはくたびれた人形がきつく握り締められている。
揺らめく映像を背景に、女の呟きは続く・・・

女　ざざざっ、ざざっ・・・　いくつものスコップでかけられる土が棺桶の蓋を鳴らす音。小さな箱の中、幾重にも反響して、そして大きなうねりとなってわたしを押さえつける。ざざざっ、ざざっ・・・　四方八方から周期的に苛むように響きわたるそれは、まるで・・・　まるで・・・
・・・突き刺すような腐敗臭に鼻腔を塞がれ、わたしは幾度もむせ返る。きっと身体の皮か肉か骨かが腐り出してるんだ。そう、生きながらわたしはすでに腐り始めてる・・・皮膚に張りつくかのような腐敗臭が小さな箱を満たしている。塩気を含んだ湿ったそ

の臭いは、まるで・・・　まるで、なんだっけ・・・
・・・跳ね返る土の音とむせ返る臭気とが支配する暗闇の中、わたしは悲鳴を上げながら棺桶の内張りを引っ掻き、そして蹴りまくる。　・・・でも、喉が裂けるほど叫んでも、爪が割れ剥がれるまで引っ掻いても、足が痣だらけになるほど蹴りあげても、誰も答えてはくれない。ただ、わたしにかけられる土の音、わたしが腐りながらあげる臭い、そして一寸先も見えぬ闇があるだけ・・・
・・・黒い夢。そう、ここに住む者は、みな「黒い夢」を見る。暗黒の中で永遠に落下する者、一条の光もない荒れ野をさまよい続ける者、黒い水面に顔を突っ込んで窒息する者、そしてわたしのように湿った闇に埋葬される者・・・
・・・湿ったシーツの上で悲鳴を上げながら飛び起きる。悪夢から目覚めても、誰も安堵の息なんか漏らしはしない。みんな分かってるんだ。この街自体が大きな棺桶だってこと。何処にも逃げ場はないってことを・・・
「黒い夢」は決して覚めることはない−この街、Junk Metal の中にいる限りは・・・

舞台後方のひときわ大きな映像に、
何処までも降下していく少女の映像に、
その少女が握り締める古ぼけた人形の映像に、
「from Under the Junk Metal」の文字が浮かび上がり、
そして、明滅し、消える・・・
闇がすべてを包み込む。

02 A junk digger

舞台の上に女。その後方に小さくちぢこまる様に座っている老人、ゼンジーである。雑炊をすすっている。
そこにおもむろに登場してくる人影。一人の少年(小僧と呼ばれているようだ)とベドウィンの民のような装束の二人。身体に巻きつけたボロ布は泥だらけだ。小僧は腰に紐を結びつけられている。他方はベドウィンの民が握っている。ベドウィンの民はハニーとチェリー、それにしても埃っぽい奴等だ・・・

女　お帰り。早かったね・・・
ハニー　(背負っていた大きな荷物を下ろし)・・・このモグタンの調子が悪くてな。途中で止まっちまいやがんの。(袋を開くと直径三十センチぐらいの小型の古ぼけたシールドマシンが姿を現す−これが「モグタン」か・・・)
チェリー　(埃だらけのゴーグルを外し)穴ん中から引きずり出すのに一苦労ってところだったよ・・・

体についた埃をはらう二人。

女　ちょいと、やめとくれよ。ここはまがいなりにも雑炊屋だぜ。埃は外ではらってくれ。
ハニー　はいはい、分かりましたよ。(と言いつつも、埃をはらい続けてる)
女　ちっとも分かってねえじゃんか・・・
小僧　あっ、ゼンジーだ。(雑炊をすすっているゼンジーに気付き駆けていくが、腰に巻いた紐がピーンとね、ピーンと)
ハニー　痛でっ、くら、小僧！
小僧　ハニー、早く紐外してよ。もう、穴ん中じゃないんだから・・・
ハニー　そうだな(と外す)
小僧　ゼンジー、キック！

と、ゼンジーに体当たりをかます。見事に吹っ飛ぶゼンジーさん。

女　こら、ゼンジーが壊れちゃうだろ。
小僧　ゼンジーはそう簡単に壊れないよ。ねー、ゼンジー？
ゼンジー　(ほんとは壊れそうなんだけど、笑って頷いちゃう)
チェリー　・・・ところで、こいつ(小僧)のアニキは？

女　今日はまだだね。

チェリー　(と袋の中から基盤とかガラクタみたいなのを引きずり出しつつ)今日の収穫をチェックしてもらおうと思ったんだけどな・・・

女　どうせ二束三文だろ。でもどうしてこんなガラクタが売りもんになるんだろうね？

チェリー　レアメタルちゅうのんがはいっとるからです・・・

女　そうそう、「れあめたる」ね・・・

チェリー　それに、この前みたいにおいしい基盤ひろえたりすることもあるし・・・

ハニー　基盤じゃなくてディスク・ドライブだろ。

チェリー　そう、それ。アニキがこれアンティークとして価値があるかもって言ってたじゃん。んでもって、ミヤジマんとこ持ってったわけ。そしたらさー・・・

女　なんぼでこうてもらったと・・・

ハ・チ　ぐっふっふ・・・内緒。

女　あるもんだね、お宝・・・

ハ・チ　Under の東は宝の山かもよ・・・

ハニー　あっ、今ミヤジマで思い出したんだけど・・・　聞いた、あれ？

女　なにを？

チェリー　昨日、ミヤジマ殺されたって。

女　ミヤジマが死んだ！

ハニー　ミヤジマだけじゃねえ。ミヤジマ興産の構成員約三十人も一緒にあの世行きだと・・・

女　じゃあ、壊滅じゃん。

チェリー　Under の一部じゃ、すげー騒ぎだよ。ミヤジマ興産のシマのぶん取りや、やってた「しのぎ」の後釜狙って、Under 中のヤー公が右往左往さ。

ハニー　Under の勢力地図が今まさに書き換えられてるってわけ・・・

女　で、やったのは三幇(トライアド)の連中かい？　だったら、でかい「でいり」になるね・・・

ハニー　三幇(トライアド)じゃねえ。分からねえんだ、誰がやったか・・・　まあ、これは単なる噂なんだけど・・・

女　どうしたんだよ。

チェリー　チャタバックスじゃねえかって・・・

女　チャットが？

ハニー　ただの噂だよ・・・　それにチャットだとしたら裏で糸引いてる奴がいるはずだろ？

女　・・・・・・

チェリー　とにかく、ねーちゃん。「この街もその雑炊のなべみたいにぐつぐつ煮立ってきたぜ」って感じ・・・

女　なんだそりゃ？

チェリー　黒沢の「用心棒」の中の椿三十郎のセリフだろ。この前DVDで見た。

女　　文化的生活してやがんな、クズ拾いのくせに・・・

後方でゼンジーと小僧が小型シールドマシンをいじっている。

小僧　ゼンジーだめだよ、そんなとこ、いじっちゃ・・・　あっ、今何か飛んだよ。バネみたいの、びろろーんって・・・

ゼンジー　しー、しー・・・

ハニー　(気付いて)こら、ゼンジー。モグタンに触るんじゃねえってーの！

ゼンジー　直してるあるよ・・・

チェリー　直せるわけないだろ、お前に。ちょっと調子がいいと、余計なことするんだから・・・　いつもみたいに壊れてろよ、ぼけーっと・・・

ゼンジー　これ、ここんとこのセルモーターがおかしくなってたあるよ。これで大丈夫あるね。３、２、１・・・プチっとね。

ゼンジーがボタンを押すとシールドマシンが軽快に回転を始める。

小僧　あっ、動いた。ゼンジー、凄いね！

ハニー　おいおい、こんな事もあるもんか？

チェリー　ゼンジー、さすがは元泣く子も黙るゼンジー商会の社長！

ゼンジー　褒められても困るあるよ。

ハニー　俺、あんたを見くびってたよ・・・　素直に謝る。ゼンジー、あんたやっぱり・・・

と、快調に動いていたシールドマシンが妙な振動を始め・・・「ばん！」というせこい爆発音を響かせ沈黙する。けむり上がってるし・・・

ハ・チ　ゼンジー・・・

ゼンジー　あれ？

ハニー　壊したな、お前。

チェリー　俺たちの商売道具・・・

ゼンジー　・・・お、おねいちゃん、ごちそうさまあるね。じゃ！

と、ゼンジー全速力で逃げ出す。

チェリー　逃がすか！！（と、ゼンジーを追う）

小僧も「わー」と叫んで何故か逃げようとするが、ハニーに腰紐を引かれてしまう。

ハニー　お前はアニキ呼んでこい。まったく困ったことになっちまったよ・・・

駆け出すハニー。それを何食わぬ顔で見送る女。
シールドマシンは未練たらしくまだけむりを上げている・・・
そして、舞台は急速に暗転する。

03 The disk remained in my hands

一人の男が立っている。小僧の「兄」と呼ばれるこの男は多少足を引き摺るようにして歩く。手には光るディスクを持っている・・・

兄　(ひとりごちて)・・・一枚のディスク。ヤオビクニの記憶の一部。
ヤオビクニ・・・そう、かの渋沢信太郎によって造られた未曾有の巨大コンピュータ。この街のすべてを管理していた機械知性。気温や湿度、そして街灯の明るさにいたるまで・・・　市民が生きていけるよう、衣食住に関するすべてのものの生産と供給をコントロールしていた・・・

と、背後に男の姿、鰓瀬である。都市管理会議の制服を着ている・・・

鰓瀬　いや、もしかしたらそれらの「需要」、つまり「我々の欲求」をも制御していたのかもしれない・・・
兄　鰓瀬・・・
鰓瀬　そう思わないか、一堂？　カーネルモード・インタラプトの後、都市管理会議はヤオビクニの放棄を決定したが、市民全員がその方針におとなしく従った。それまではヤオビクニを蛇蝎のごとく憎む奴や、神様として拝む馬鹿まで、いろんなのがいたっていうのに・・・　それはまるで、人々の欲望が枯渇したかのようだった。
兄　欲望がなくなったわけじゃない、その対象を失っただけだ。
(ひとりごちて)・・・確かに人々は皆、抜け殻になったようだった。あのカーネルモード・インタラプト、ヤオビクニの不可逆的停止を境に・・・　その巨大コンピュータの機能停止を引き起こしたのは HOPE と言うプログラムだ。ヤオビクニの制作者である渋沢信太郎がファームウエアとして書き込んだプログラム。自殺した妻とともに百年後の世界に再びクローンとして再生しようとした禁断のプログラム・・・　再生された渋沢信太郎とその妻のクローンはこの地下都市と地上とを隔てる隔壁を開こうとまでした。それらクローン、すなわちミミックは扉を開く寸前に処理されたが・・・　つまり、私たちが撃ち殺したのだ。ER21 の非常扉の前で二体のミミックを・・・　しかし、それらが消滅してもプログラム HOPE はヤオビクニの中で走り続けた。そして・・・ヤオビクニが停止した。
鰓瀬　一堂、あの一件に関して、俺にはどうしても腑に落ちないことがあってな・・・
兄　ぼくだってそうだ。あのプログラムがどうしてヤオビクニの破壊を引き起こしたのかって・・・　プログラム自体が致命的欠陥を含んでいたのか、それとも、もっと高次レベル

で命題の不良設定が生じたのか・・・

鰓瀬　違うんだ。そういうことじゃなく・・・　何故、ヤオビクニはプログラム HOPE を起動したのかってことだ。

兄　起動した理由？

鰓瀬　そう。何故あの時、プログラム HOPE は起動されたのか？　それは自分自身のと妻のクローンに青い海を見せるためのプログラムだった。ER21 の非常扉を開放して・・・しかし、その時、外部ディテクタは高い有害物質濃度を示していて、外の環境が未だ浄化されていない事を伝えていた。地球環境が改善されていないなら、プログラム HOPE を起動する意味もないはずだ。

兄　ヤオビクニが外部ディテクタの数値を改竄していた・・・
（ひとりごちて）「ヤオビクニが隠してるんじゃないの？　私たちの一番乗りのために・・・」それは女のクローンが、あのミミックが、破壊される直前に言った言葉だ。地球環境はすでに浄化されている？　でも、それは信じるに値するのか？　それに、ヤオビクニが停止してしまった今となっては、確かめる術もない・・・

鰓瀬　確かに、外部ディテクタとの再アクセスは不可能かもしれない。だが、外部環境を知ることは出来るだろ。

兄　どうやって？

鰓瀬　プログラム HOPE 自身に聞くんだ。

兄　あっ！　起動条件項目か？

鰓瀬　おれが作者の信太郎なら、「地球環境の完全な浄化」を起動条件に設定する。だってそうだろ？　それが一番重要なことなんだ。つまり、プログラム HOPE 上のそれを調べれば、間接的に「外部環境の状況」が分かるというわけだ。

兄　間接的にね・・・　それが事実かどうか分からないまま・・・

鰓瀬　渋沢信太郎は環境浄化システムの設計者でもある。自らの再生に関してそこん所をいいかげんにするとは思えない。だから・・・

兄　いいかい。それにしたって、プログラム HOPE はもう見ることは出来ないんだ。ヤオビクニは完全に停止してしまっているからね。そのオペレーティング・システムも、ソフトウエアも不可逆的な損壊を・・・　だから、端末からプログラム HOPE を今さらリトリーブしようにも・・・

鰓瀬　端末からのアクセスが不可能なことは分かっている。しかし、プログラム HOPE は完全とは言えないまでも、まだヤオビクニの中にあるんだろ。ヤオビクニのデータ・ストレージの中に・・・

兄　まさか、ヤオビクニのデータ RAM を盗もうっていうの？

鰓瀬　回収と言ってくれないか。

兄　そんな事をしたら・・・

鰓瀬　どうなると言うんだ？　今の都市管理会議を見てみろ。脳死状態だ。ヤオビクニとともに機能停止してしまったようだ。もはや、何の判断も意思決定もできない・・・　俺たちが市民を救うんだ。俺たちの意思で再びプログラム HOPE を起動する。

兄　でも・・・

鰓瀬　一堂、俺はみんなのためにあの扉を開きたいんだ。もし、外が元通りに戻っているなら・・・　おまえはこの都市の人々を愛していないのか？　彼らに海を見せてやりたいとは思わないのか？

兄　(ひとりごちて)・・・そうして、鰓瀬とぼくはヤオビクニのデータ・ストレージに侵入し、データ RAM を盗む・・・いや、回収する計画を実行に移した。ストレージ・ルームへの侵入は簡単ではなかったが、ぼくらは都市管理会議のディテクティブであったし、それに職業柄、このような犯罪行為に精通していた・・・

一度、舞台袖に消えた鰓瀬がたくさんのディスクを手に現れる。

鰓瀬　・・・たったこれだけで、終わりか？

兄　(ディスクを手に取り)この光磁気ディスク1枚の容量は 1280TB（テラバイト）。それだけでも軽く 30000TB を超えるよ。

鰓瀬　で、この中にプログラム HOPE が？

兄　ああ、間違いない。部分的に壊れている可能性はあるけど・・・とにかくこれを持ち帰って、旧型のディスクドライブでアクセスすればいい。

鰓瀬　旧型の？

兄　そう。だってこれはヤオビクニ建設当時のデバイスだし・・・

鰓瀬　何処で手に入る？

兄　博物館かな？

鰓瀬　今度は博物館に侵入か？　エキサイティングな日々が続くな。

唐突に警報が鳴り響く！

鰓瀬　どうした？

兄　見つかった！　でもどうして？　セキュリティ・ブレイクは完璧だったし、それにぼくら自身のジャミングだって・・・

鰓瀬　都市管理会議を甘く見すぎたか・・・　一堂、とにかく逃げるんだ！

と、二人走り出す　。鳴り響く警報。威嚇するようなアナウンス。

「第一級機密情報の漏洩が発生。ストレージ・ルームに侵入者あり。武装警護部隊は

レベル3で対応せよ。威嚇の必要なし・・・」

鰓瀬　レベル3だって！？　エキサイティング過ぎるな・・・
兄　どうして？　鰓瀬、ぼくは何処でミスしたんだろう？
鰓瀬　知るか！　そんなことより走れ！　撃たれるぞ！

しかし、兄が転んでしまう。四散するディスク。
必死にそれを拾い集める鰓瀬・・・

兄　もう、だめだ。走れない・・・
鰓瀬　何言ってるんだ！　走れ！
兄　鰓瀬、一人で逃げて。ぼくは足が遅いから、ぼくと一緒じゃ・・・
鰓瀬　(強引に手を引き)行くぞ！
兄　このままだと二人とも捕まる！　早く！
鰓瀬　(拳銃を引き抜き)お前を置いていけるか！
兄　ぼくは足手纏いになるだけだ。鰓瀬一人なら逃げきれる。
鰓瀬　できるか！

と、兄、鰓瀬の拳銃を両の手で抑え、自分の足に向けて銃弾を発射する。
崩れ折れる兄・・・

鰓瀬　一堂、お前・・・
兄　これはぼくの責任だから・・・　早く行って。行けって！　みんなに海を見せるんだろ？

幾十もの足音が背後に迫る。血が吹き出すほど強く拳銃を握り締め、鰓瀬は兄を見つめる。そして・・・　何かを振り切るように駆け出す鰓瀬。それを見つめる兄。ふと足もとに落ちている1枚のディスクに気付き、手に取る。それを差し出し、「鰓瀬！」と叫ぶ。でも、鰓瀬はもう答えない。幾十もの足音がすぐ背後に迫っている・・・
そして、喧噪がゆっくりと遠ざかる。舞台の上には兄が一人。

兄　・・・武装警護部隊はわたしを殺さなかった。被害者だと、そう思ったんだ。都市管理会議はわたしを審問した。わたしはあるハッカーに脅迫されてストレージ・ルームへの侵入を手引きしたと答えた。都市管理会議はその男のデジタル・モンタージュを作成したが、本格的な捜査などする気はなかったようだ。いまにもボロが出そうなわたしの作り話の矛盾点を追及することもしなかった。興味などなかったに違いない・・・　ただ、わ

たしは責任を追及され、都市管理会議から、いや、都市から追放された。そして、今わたしはここにいる。この Under に・・・ 鰓瀬、君はどうしてる？ わたしはここでどうにか生きている。今では一人ではないしね・・・

背後の瓦礫の中にあった黒いゴミ袋がガサリと音を立てて動く。
兄、それに気付き振り返る。

兄　・・・ここに来てすぐのことだ。路地裏のゴミ捨て場で・・・

黒い大きなゴミ袋がガサゴソ動く。兄、それに近づき袋を破る。
中に一人の少年が入っている。傷つき弱っている。

兄　・・・ゴミ袋が不意に動いた。中からうめき声も聞こえる。開けてみたら、中に少年が入っていた。いたく傷つき、そして弱っていた・・・

少年を抱える。

兄　Under はこんな所だ。死体や死にかけが路地裏にごろごろ転がっている。でも、こいつはまだ息がある。幸運な子だ。わたしは成り行きで、この子と暮らすことになる・・・ そして、今日がわたしが Under に落ちてきてからちょうど丸五年の日にあたる・・・

舞台がゆっくりと暗転する・・・

04 Another mainframe

舞台の上に兄と小僧。兄はコンピュータ(とてもコンピュータに見えない代物なんだけど・・・)に向かっている。

小僧　(敬礼をして)では、探険へ行ってまいります。
兄　(コンピュータに向かったまま)顔洗ったのか？
小僧　洗ってません！
兄　じゃあ、洗え。
小僧　はい。(と、速攻で顔を洗う仕草、と、また敬礼し)洗いました、行ってきます！
兄　歯は磨いたのか？
小僧　磨いてません！
兄　じゃあ、磨け。
小僧　はい。(と、速攻で歯を磨く仕草、と、また敬礼し)磨きました、行ってきまーす！
兄　速攻だな・・・　じゃあ気を付けて。
小僧　はい！　気をつけます。

小僧、駆け出そうとするが・・・

兄　(制して)ところで、最近チャーミーにあってるか？
小僧　(足踏みしながらも、怒り出しちゃう)もー、なんなんだよ。遅れちゃうだろ！　そしたら、またハニーに怒られちゃうよ。
兄　そうだな・・・
小僧　お兄ちゃん、遊んでるな？
兄　なんか必要以上に焦ってるからさ・・・　いじりたくもなるってもんだろ？
小僧　いい、お兄ちゃん！　これはぼくの仕事なんだよ。お兄ちゃんの雑炊代誰が払ってると思ってるの？
兄　はいはい、あなた様でございます。あなた様のゴミ拾いのお蔭です。
小僧　ゴミ拾いじゃない！　探険です！
兄　でも、やってることはゴミ拾いだろ？
小僧　探険です！　そんなに馬鹿にするなら、代わりにお兄ちゃん行ってよ。
兄　馬鹿にするなら代わりにお兄ちゃんが？　理に適ってないだろ、それ。
小僧　(馬鹿にして)あっ、だめだ、お兄ちゃんじゃ・・・　だってモグタンの掘った穴の中通り抜けれないもんね・・・　まっ、ぼくぐらいちっちゃくなきゃ、切り込み隊長は勤まらない

な・・・

兄　お兄ちゃんだって腰に紐つけられて、穴の中にもぐり込むのなんかまっぴらだ。

小僧　あのね、切り込み隊長はとてもみんなが尊敬する重要なポストなんだぞ！　そんなこと言ってると・・・

兄　おい、時間いいのか？　遅刻じゃない？

小僧　そうだ。こうしちゃおれん。急がないと、また、ハニーに三発ぐらい殴られちゃう・・・(と駆け出していく)

兄　気を付けてな、ゴミ拾い。

小僧　(戻ってきて、たしなめる)たんけん！

脱兎のごとく駆けていく小僧。舞台の上に兄が一人残る。

兄　探険か・・・　そう言えば、もう三年近くになるか。彼らがわたしを訪ねてきてから・・・

照明が変化する。舞台後方にハニーが駆け込んでくる。

ハニー　あんたかい？　ミヤジマんとこのコンピュータ直したって言うの。

続いてチェリーとチャーミーも登場する・・・

チェリー　なんか、バイオ／エレクトロニック・デバイスを、ちょちょいのちょいって感じだったらしいじゃん。

ハニー　ちょっと頼みがあるんだ。こいつ(チャーミー)のことなんだけど・・・

兄　・・・頼みというのは、筋肉の運動機能を極限まで高めるアクセラレータを外して欲しいということだった・・・　良くある違法なバイオ／エレクトロニック・デバイスだと思って、二つ返事で引き受けたが・・・　実際は考えていた以上に厄介な代物だった・・・

セリフの間に兄は舞台前方へと移動し、後方の三人も動き、回想場面となる。

兄　・・・筋肉の緊張と弛緩はカルシウムイオンによりコントロールされている。カルシウムイオンの筋膜での放出と再取り込みの速度は五十ミリ秒。筋肉は基本的には最大で一秒間に二十回動かせることになる。しかし、これはカタログ上のスペックで、実際そんなことしたら・・・

チャーミ　どうなる？

兄　嫌気代謝によって多量に生じる有機酸の影響で筋肉が融ける・・・

チェリー　グラッジの腕が腐って落ちたのは、それが原因・・・　にしても、あんた、ただの City の落伍者じゃないな。一体 City じゃ何やってたんだい？

兄　盗みと殺人・・・

チェリー　エキサイティングな生活してらしたのね・・・

ハニー　そんなことより、外せねえのか、チャーミーの腕のこれ？

兄　・・・腕の表面についてる電子部品は単なるモニターみたいなもんだ。筋肉が一秒間の間にどれだけ緊張と弛緩を行ったかを表すデジタルカウンター、ただの飾りだ。だから、これを外したところで何の変化も生じない。アクセラレータの本質は筋肉組織の中にある。神経系とカルシウムイオンの開放と取り込みに関係するT-チューブルと呼ばれる器官の間に生体部品が組み込まれている。それが信号のプロセッサとなっているんだろう・・・

ハニー　それを外せば・・・

兄　ほとんど融合しているから、外せない。

チャーミ　どうすればいい？

兄　極力動かさないようにすればいい。プラスターで固定でもして・・・

ハニー　じゃあ、ないのと同じじゃねえか！

兄　違う。ついているだろう。

チェリー　チャーミーはギター弾きなんだよ！　ギターが弾けなきゃ・・・

兄　弾けなきゃ、なんだ？

チェリー　・・・・・・

ハニー　どうにかならねえのか？　その生体部品とやらを・・・

兄　バイオプロセッサを扱うにはバイオコンピュータの知識が必要だ。

ハニー　誰に聞けばいい？

兄　きっと誰も知らない・・・

ハニー　どういうことだ？

兄　バイオコンピュータなんて存在していないからだ。バイオプロセッサだってそうだ・・・

ハニー　ちょっと待て、ここにこうしてあるだろう！

兄　(ふと気付く)KITAZAC・・・

ハニー　なんだって？

兄　KITAZAC・・・　唯一のバイオコンピュータ・・・

ハニー　何処にある？　City のどの辺りだ？

兄　City じゃない。Under の東の外れ、建設当時 ER21 地区と呼ばれていたところだ・・・

チェリー　東の外れ？　ただの瓦礫だぜ、あんな所・・・

兄　その瓦礫の中に埋もれて、どこかにある・・・

ハニー　それを見つけたら、もしかしたら・・・　チャーミーの腕のバイオプロセッサをどうにかで

きるかもしれないわけだよな？

兄　そんなことは分からない・・・

ハニー　可能性はあるんだろ？　それを調べれば、バイオコンピュータの知識が・・・　で、どれぐらいの大きさで、どんなもんなんだい？

兄　分からない。きっと誰も見たことがないから・・・

ハニー　でも、あるんだよな、それ。チェリー、明日から俺たち探検家になるからな。チャーミー、期待して待ってろよ。

チェリー　探検家っていっても、金はどうするの？

ハニー　探検しながら、目に付くもん拾って生計立てるの。

チェリー　立つか、普通？

ハニー　立てるの！

ハニー、チェリーの肩を力強く叩き退場。チェリーとチャーミーも仕方なくそれに従う。舞台の上には兄が一人。照明が変化する。兄、傍らよりディスクを取り出し、ドライバにセットする。

兄　ヤオビクニの記憶の一部。このディスクの中でわたしは KITAZAC の事を知った。地下都市のもうひとつの機械知性の存在。バイオコンピュータだって？　まさか？　最初はそう思った。でも、調べていくうちに、どうやらそれは環境浄化システムのコアとして機能しているらしいということが分かってきた。信太郎はヤオビクニにこのシステムを監視するためのプログラムを書き入れていたようだ。ここに膨大な通信ログ、ヤオビクニとKITAZACとの取り交わしの記録がある。取り交わし？　いや、通信は常に一方的だった。KITAZAC からヤオビクニへ、外部環境をモニターした数値、気温、湿度から、大気組成、海水の pH、重金属濃度・・・　ありとあらゆる環境指標についての数値が並んでいる。この通信ログは 300Mbyte と恐ろしく膨大だが、言っていることはたった 30byte で表現できる。「環境浄化はまるで進んでいない」だ。鰓瀬、もう気付いているか？　外部環境はすこしも浄化していないんだ。信太郎の造った環境浄化システムは、バイオコンピュータを中核とするその得体の知れないプログラムはなんの成果も出していなかったんだ・・・　なのにどうして、プログラム HOPE は起動してしまったんだろう・・・　鰓瀬。君はどんな結論に達したんだ？　もう、プログラム HOPE は見つけたかい？　だろうね。わたしはゼンジーから借りてるジャンクコンピュータだけど、君はこれの千倍は速い CPU と一万倍は賢いシステムを使っているだろうから・・・　実のことを言うと、ぼくはこのたった一枚のディスクですら、その半分も解析できてないんだ・・・

舞台が溶暗する。

05 The Occam's law

舞台後方で画面に文字がタイプされる。同時に変調された機械音声が響く。

VTL Simulator
analyzes "program HOPE"
<VTL シミュレーターによりプログラム HOPE を解析します>
launch new simulation... <新規シミュレーションを開始>

シミュレーションが開始されたようだ・・・

Area ER21- <ER21 地区>
Shutter 105 is unlocked <第 105 防火扉開錠>
Door F61 opens <F61 扉開放>
.
.
.

迷路のような ER21 地区のワイヤフレームの中を高速度で進行していくかのような映像。どんどん深部へと侵入していく。
やがて、大きな壁に埋め込まれた巨大な扉の前に達する。
と、画面上に「警告」が明滅する。

Warning the final partition is still closed
<警告、最終隔壁開錠不能 警告、最終隔壁開錠不能>

長いビープ音・・・

Simulation-INCOMPLETE <シミュレーション不成功>

舞台に黒いコートの男(鰓瀬)が浮かび上がる。

鰓瀬　・・・プログラム HOPE、最終コマンドブロック。実行せず。ER21 の非常扉はピクリとも動かない。何度やっても同じか・・・ 今回のシミュレーションでの障害を解析しろ。

画面上に解析結果が表示される。

assumed PROBLEMS <想定される障害は・・・>
DISK DRIVE UNIT and／or ITS DRIVER PROGRAM
<ディスクドライブまたはそのためのソフトウエア の不備>

鰓瀬　ディスクドライブおよびドライバは三度交換した。それぞれの作動ついては徹底的に確認しただろう。

...thoroughly verified each device
<確かに注意深く確認しました>

鰓瀬　バイオ／エレクトロニック・コンバーターは？

feasible access <ネットワークとのアクセスに問題はありません>

鰓瀬　今度のは「まがい物」ではなかったようだな。で、他に想定される問題点は？

ill-posed problem on program HOPE…
<プログラム HOPE 上の不良設定・・・>

鰓瀬　最終コマンドブロックに関しては完全なものを使っている。あの事件後、都市管理会議によりリトリーブされたコピーとの照合結果も完全に一致した。プログラム HOPE は完璧だとして、他の原因を分析しろ。

Operation unit in EXIT ER21?
<非常扉の開閉システム？>

鰓瀬　クリア。

Power supply?
<供給電源系の問題？>

鰓瀬　クリア。・・・何度も聞いた結果だ！　解析方法を変更する。ヒューリスティック分析プロ

セスから「オッカムの剃刀」を抜け。

DISAPPROVAL!
<お勧めできません。オッカムの法則の不使用は
不適切な「仮定」の過剰な導入を引き起こします。
そのため、解析結果の信頼性が著しく・・・>

鰓瀬　新たなる「仮定」の導入だ。「オッカムの剃刀」を削除し再解析しろ。

neglect the Occam's law <オッカムの法則を無視>
launch new analysis...
<新規解析を開始しました・・・
警告、この解析には多大な時間の浪費が予想されています。
警告、この解析には・・・>

照明が変化し、舞台上の鰓瀬が強調される。

鰓瀬　・・・一堂。お笑い種だろう？　俺はまだ、プログラム HOPE を走らせることが出来ないでいるんだ。お前なら、もっと上手く出来るはずだが、俺にはこれが精いっぱいだ。実際、大変だったよ、お前がいなくなってからというもの・・・　博物館からディスクドライブを盗み出し、データを解析し・・・　それもったった一人で・・・　時折 Under のサルどもの浅知恵の「お世話」になりながらさ・・・　奴等は金か銃弾で面白いように動く。たまには担がれもしたが、利子を付けてお返ししたり・・・　一堂、お前はここ Under のどこかで俺のことを待っている。プログラム HOPE が実行されるのを待ちわびている。分かっているさ。俺がプログラム HOPE の起動に成功したら、お前が戻ってくることぐらい・・・だから、どんな事をしてもこのプログラムを走らせなきゃならないんだ。ER21 の非常扉の前で俺たちは再び出会う。それは神の意志だ。そして、俺たちは一緒に扉の向こうに歩き出すんだ。海に向かって・・・　一堂、もうしばらく待っていてくれないか？　Under のサルどもの中でもう少しだけ耐えていてくれないか？　頼む、一堂。こんな腑甲斐ない俺を許してくれ。一堂・・・

その時、VTL シミュレーターの解析が終了する。

Analysis was completed <解析が終了しました>

鰓瀬　　解析結果を表示しろ。

〈想定される問題の数が 528 項目あります〉

鰓瀬　　今までの解析結果と重複する項目を除外。

〈441 項目です〉

鰓瀬　　可能性の低い方から一覧表示。

一覧表が提示される。

〈下位 441 番から 432 番までの結果です〉
〈次の頁に進みますか？〉

鰓瀬　　待て。なんだ？ 「もうひとつの機械知性」というのは？

「Another machine-intelligence」と言う項目が明滅し、拡大する。

〈「もうひとつの機械知性」が ER21 の開閉を司っているという仮説です〉

鰓瀬　　もうひとつの機械知性・・・ つまり、それとコンタクトしなければ扉は開かないというわけか？

〈しかし、これは再確認が不可能な事実に基づいており、
仮定そのものの妥当性が極めて低く・・・〉

鰓瀬　　もうひとつの機械知性の存在を想定した上で、ヤオビクニのデータ RAM を再走査しろ。

〈再走査します〉
launch new scan...

明滅する画面が黒ずんでいく。暗転。

06 The place to die

舞台の上には女が一人。手に古ぼけた人形を握り締めている。

女　部屋の隅のガラクタの山の下敷きになってひっそりとそいつは隠れていた。いたく古ぼけたひとつの人形。とっくの昔に捨てたと思っていたのに・・・　グラッジと出会ったあの頃に、たしかに捨てたはずだった。ほら、よく言うじゃない。何かを手に入れるためには、何かを捨てなきゃいけない。二つの大切な物は並び立たない・・・　だから、グラッジのことを大切だと気付いたときに、代わりにこいつを捨てたはずだ。パップ君、小さな頃からのわたしの友達。City からこの Under に落ちてきたとき持ってきたたった一つのもの。どうしてまだこんな所に？（人形を見つめ）ねえ、パップ君、どうしてここにいるの？　だからなの、グラッジがわたしを置いて行ってしまったのは？
よそう。そんなこと考えるのはよそう。ねえ、そうだろう、パップ君・・・　グラッジは・・・そう言えば、グラッジはあの男にそっくりだった。まだ小さかったわたしの手を引いて、Under へ通じるリフトに飛び乗ったあの男に・・・

舞台後方に映像が消え入りそうに明滅している。リフトの中の少女・・・

・・・わたしはパップ君をを握り締めてた。強く、とても強く・・・　そう、どうしようもないくらい不安でしかたなかったから。
「ねえ、ママのところに行くの？」
わたしは聞いた。あの男は虚空を見つめたまま口を真一文字に結んだままだ。わたしだってそうじゃないことぐらい分かってた。でも・・・
「ねえ、何処に行くの？　・・・パパ」
わたしの問い掛けに男はこちらを振り向きもせず、こう言った。
「・・・死に場所だ」
凍りつきそうなぐらいに冷たい声で・・・
その時、リフトががたんと揺れて、滑車から青白い火花が散り、一瞬男の顔を浮かび上がらせた。肉の削げた頬の剃り残しが、その男の冷たい表情が、わたしの網膜に焼きついた・・・　振り払っても、振り払っても、消えやしない・・・
グラッジが自分の頭を撃ち抜いたとき、拳銃からの火花でグラッジの顔がぼあっと浮かび上がって・・・　その時グラッジの顔とあの男の顔が一瞬重なったんだ。あたしの網膜の上で・・・　その時までは気付きもしなかったんだよ。グラッジがあの男にそっくりだなんて・・・　ほんとだよ。その時まではちっとも・・・あの男は結局わたしを行き先

である「死に場所」へは連れて行ってくれなかった。そして、グラッジも・・・　いつもわたしは取り残される・・・　もう死んでいるのに、完全な死体なのに、「死に場所」に未だ辿り着かない・・・

人形を見つめる女、うっそりとゼンジーが登場する。

ゼンジー　ゼンジー、お腹すいたある。あれ？　どうしたあるか？
女　ゼンジー・・・
ゼンジー　(女に近づき)おにんぎょさんあるねー。どうしたあるか？
女　ん？（しばし考えて）あの子にあげようと思ってさ。お古だけど・・・
ゼンジー　ほんと、お古あるね！
女　なんかかちんと来るね、お前・・・
ゼンジー　汚いあるね・・・　じゃあ、ゼンジーのおじいちゃんの知恵袋よ・・・

と、懐よりガムテープのようなものを取り出し・・・

ゼンジー　粘着埃取りぃ！（どらえもん風でね）
女　おい、それただのガムテープだろ！
ゼンジー　(突っ込みは無視して）これで、きれいきれいになるあるよ・・・

と、人形を奪い取り、埃を取り始める。ちょっと「がさつ」か？

女　おいおい、優しくやっておくれよ。結構年季はいってるんだから・・・
ゼンジー　大丈夫ある。これぐらいやらないと、しつこいダニやタバコのやにとか取れないあるよ・・・
女　そうか？

と、(ご要望通り)ガムテープと一緒に縫いつけらていた目がとれる。

女　おい、目とれたぞ、今。
ゼンジー　そ、そんなことないあるよ・・・(と、必死に隠そうとしたり、ごまかそうとしたり・・・　でも、ばればれぢゃん)
女　取れたって！　貸せゼンジー！

素直に人形を差し出し、「ごみんある・・・」と謝るゼンジー。

かなりしゅんとしている・・・

暗転。

07 A badly tuned guitar

一人の男が座っている。チャーミーである。その右腕はプラスターでがっちりと固定されている。
ハニーが登場する。

ハニー　・・・飯食ったか？
チャーミ　ああ。チェリーは？
ハニー　小僧のアニキのとこ。
チャーミ　イチドーさんのところか？　またお宝見つけたって訳？
ハニー　いや、そうじゃないんだ。モグタンがいかれちまってさ・・・
チャーミ　また？
ハニー　今度こそ、もうお釈迦かもしれないな。「ばん」とかいって煙吹き上げちゃってさ・・・
チャーミ　宝探しに支障が出るな・・・
ハニー　いざとなりゃ、たがねで掘るさ。
チャーミ　あのレドンコンクリートを？
ハニー　玄武岩砕くよりゃ、ましだろ。
チャーミ　手伝ってやろうか？（プラスターで固定された右腕を叩き）なにせ、バイオデバイス入りだからな、俺のは。一秒間に十回ぐらい打てるぜ。そして、付け根から「ぽろっ」だ・・・　グラッジみたいに・・・
ハニー　自虐的になるなよ・・・　俺たちが元通りにしてやるからさ、絶対に。あれ見つけて・・・
チャーミ　KITAZAC？
ハニー　そう。Under の東の外れにあるって言う・・・
チャーミ　オズの魔法使い・・・
ハニー　なんだって？
チャーミ　オズの魔法使い。どんな夢でもかなえてくれる魔法使いだ。
ハニー　きっとそれみたいなもんだよ。KITAZAC　っていうのは・・・　チャーミーの腕が治れば、ギターを弾ける。そしたら、俺たちまたライブが出来るだろ。Malformed Apes の再結成さ。今でこそただの雑炊屋だが、かつてネオパンク・ムーブメントの中核と呼ばれたライヴハウス「ピンクのワニさん」が不死鳥のごとく Under に復活するって訳だ。なっ、夢みたいだろ？　KITAZAC はその夢を叶えてくれる魔法使いさ・・・
チャーミ　ハニー、その魔法使いは結局・・・
ハニー　だから、チャーミー。そのプラスターを外すなよ。俺たちが KITAZAC を見つけるその時まで・・・

チャーミ　ハニー・・・（微笑んで)分かったよ・・・

ハニー　(チャーミーが悲しげな顔をしているのに気付き)どうした？

チャーミ　いや、なんでも。さっきうたた寝してたら、ちょっと夢、見ちゃって・・・

ハニー　いつもの黒い夢か？

チャーミ　いや、昔の・・・　なんで、あんな夢なんかみたんだろう？

ハニー　昔って？

チャーミ　・・・ライヴバトルやってたころの。ピンクのワニさんの楽屋でさ、チェリーは鏡にぶちあたりそうなぐらい近づいて、あほみてえなサルメイクしてて、お前はその横で咥えタバコでベース磨いてた・・・　薄い壁通して、Dead Swine Industry のチャタバックスのがなり声が客の歓声がうねるように伝わってきてて・・・　あいつ、ほんと早口だったよな、歌うときも、話すときも・・・　グラッジのギターがさ、突き刺さってくるみたいに楽屋の中まで侵入してきてて・・・「おい、また走ってるよ。しょうがねえな、フィアスのドラムと競いあっちゃって・・・　あれじゃ、客がついてこれなくなっちゃうぜ」って、お前、笑ってて・・・　もうすぐ、俺たち Malformed Apes の出番だ。そんなこと分かってるさ。でも、ギターのチューニングが合わないんだよ。何度合わしても微妙にずれるんだ。せっかく大金つぎ込んでアクセラレータぶっ込んでもらたっていうのに、チューニングがさ・・・今夜がこのバイオデバイスのお披露目ライヴだっていうのに、何度合わしても、チューニングがずれちゃうんだよ・・・　ちっとも合ってくれないんだ・・・

崩れるチャーミーを両手で支えるハニー。

ハニー　チャーミー、あせるなって。ばっちり合うさ、俺たちの出番までに・・・

ハニーがチャーミーの力強く肩を掴み、そして微笑みかける。
溶暗。

08 The stuffed doll she brought

雑炊屋「ピンクのワニさん」。
兄と少年が雑炊をすすっている。傍らに女・・・

女　(鼻で笑って)・・・小僧、ほんとに友達すくねえな、お前。
小僧　少なくないよ。いっぱいいるよ。お兄ちゃんに、ゼンジーに、あとハニーとか、それにねーちゃんだってそうだろ？
女　そーだね。で、同年代の友達は？
兄　(雑炊をすすりつつ)そりゃ酷な質問だ・・・
女　そうか。精神年齢と実年齢のギャップってヤツか？
小僧　なんだ、ぎゃっぷって？
兄　そう、同世代って言うことの定義が曖昧になっちゃうんだよ。まさか平均とるわけにも行かないし・・・ (小僧に)なっ？
小僧　「なっ」て言われてもな・・・
女　大丈夫なのかね、ほんと。こんなんで・・・
兄　こいつは Under 生まれの Under 育ち。昨日今日 City から落っこちて来た奴等とは土台が違うよ。
女　そう簡単にくたばらないってわけ？
小僧　そうだ。ぼくは芯の強い子だから、心配ご無用なのさ！　でも、独りぼっちのときはちょっと寂しいかな・・・
女　そう、そう。そんな寂しがり屋の君に・・・いい物あげよう。(と、痛く古ぼけた人形を取り出す)
兄　！ (人形を見て、動きが止まる)
小僧　何これ？
女　・・・パップ君だ。わたしが小さな頃のただひとりの友達。そして、わたしが持ってきたたったひとつのもの・・・
小僧　持ってきたって、どこから？
女　(ごまかして)・・・わたしがまだこんな小さかった時の話だ。こいつはわたしにたくさんのことを教えてくれた。食べ物の名前や、色の名前、あいさつのしかたから、本の読み方・・・　あの頃、こいつはこんな小さなモニターの中で踊りながら歌を歌ってた。(器用に人形を動かして)こんな風にね・・・
小僧　モニターの中？
女　そう、パップ君は教育ソフトウエアのキャラクターだった。

小僧　　キョウソクウエ・・・　良くわかんないや。
女　　とにかく、そん中で躍りながら歌うの・・・　何の歌だっけ？　そう、確か海の歌だ・・・
小僧　　うみ？
女　　ここの外には海って言う大きな水溜めがあるんだって・・・
小僧　　大きいって、Under の半分ぐらい？
女　　いや、もっと。Under と City を合わせたよりもっと大きいんだって。
小僧　　凄いね、誰が作ったの？
女　　神様。・・・で、歌はこんな風に続く、「ぼくらは大きな海をみることはできないけど・・・」なんだっけ？
兄　　貝殻・・・
女　　（兄の顔を見つめ、そして後ほほえむ）・・・そうだ、貝殻だ！　「小さな貝殻が海のことを教えてくれる・・・　海の調べを聞かせてくれる・・・」
兄　　「耳にあててごらん、海の思い出をいっぱいに詰め込んだ・・・」
女　　「その貝殻・・・」
小僧　　ねえ、貝殻って何？
女　　パップ君に聞いてごらん。
小僧　　（パップ君に）・・・貝殻って何ですか？
女　　（パップ君を器用に動かし）『それは貝の殻だよ・・・』
小僧　　それじゃ答えになってない。
女　　『うーん。上手く伝えられないから、そっちのお兄ちゃんに聞いてみよう』
兄　　そう来るか。
女　　さあ、お兄ちゃんに聞きな。これ持って・・・（パップ君を渡す）
小僧　　（受け取って）・・・ほんとにいいの？　これ大切な物じゃ・・・
女　　いや、全然・・・
小僧　　ありがとう。（ぺこりとお辞儀をし、人形をひっつかんで兄の方へ駆けていく）ねえ、貝殻って何ですか？　どうして、それが海のことを教えてくれるんですか？
兄　　そうやつぎばやに質問されてもな・・・　よし、じゃあまず海について簡単に説明しよう・・・

講釈をたれ始める兄。聞き入る小僧。その傍らでは女がほほえみつつ首を横に振る。ゆっくりと舞台が闇に沈んで行く・・・

09 Guns in a heap of rubble

モグタンをいじっているチェリー。
ハニーが手に紐を持ち、壁に穿った穴に向かい叫んでいる。

ハニー　おーい、小僧！　どうだ、そっちは？
小僧　(声だけがエコー付きで響いてくる)・・・はにー(はにー)、暗いよー(暗いよー)・・・
ハニー　懐中電灯は？
小僧　点かない(点かない)・・・
ハニー　チェリー、電池。
チェリー　(モグタンいじりつつ)もう、ない。
ハニー　換えの電池がねえから、目慣れるまでじっとしてろ。
小僧　ちょっと怖いよー(ちょっと怖いよー)・・・
ハニー　目つぶってろ。
小僧　うん(うん)。・・・もっと怖いよお！（もっと怖いよお！）
ハニー　小僧、そいつはお前の心の闇だ。というわけで、大丈夫だ。
小僧　ちっとも大丈夫じゃないよ！（大丈夫じゃないよ！）もう、涙まで出てきちゃった(ちゃった)・・・
ハニー　小僧、涙は心の汗だ。というわけで、大丈夫だ。
チェリー　ついこの前までパンクバンドで作詞していたとは思えんセンスだな、お前。
ハニー　ブランク5年あるし・・・
小僧　ハニー(ハニー)。涙が汗なら、じゃあ、鼻水は？（鼻水は？）
ハニー　さあ？　鼻水については分からない。
小僧　なに？（なに？）
ハニー　分からないって言ってっだろ！　いいじゃねーか、(紐を引っ張り)俺たちはこうやって「運命の糸」で繋がってんだから・・・　目慣れるまで、うたた寝でもしてろ！
小僧　寝たら、黒い夢みちゃうよ(ちゃうよ)・・・
ハニー　じゃ、起きてろ！　こっちはモグタンが駄々こねちゃって大変なんだつーのお。てなわけで、通信終わり！
チェリー　畜生！　イチドーちゃんに直してもらって、行けると思ったんだけどなー・・・
ハニー　やっぱり、お釈迦か？
チェリー　(先端を触って)ビットも相当へたってきてるしな・・・
ハニー　たがねで掘るか？
チェリー　・・・・・・

ハニー　どうした？

チェリー　あのさ、ずーっと思ってたんだけど、なんでこんな前近代的な行為をしてるわけ、俺たち？

ハニー　は？

チェリー　良く見りゃ、この地区の壁にだってきちんとドアがついてるじゃん？

ハニー　ドアがあっても開かねえから、穴掘ってるんだろ！

チェリー　あのさ、ドアの横に操作パネルとか付いてるだろ？　それ「バキッ」ってな感じでこじ開けて、出てきた配線に鰐口クリップとか取りつけて、手にしたこれくらいの「いかしたデバイス」操作すると、LED とかデジタルカウンターとか明滅して、「ぴっぽろ、ぴっぽろ、ぴー」ってな感じで、ドアがブシューッって開くだろ？

ハニー　(笑って)お前、何夢みたいなことを・・・

チェリー　時代はそんな感じだろ？　小僧のアニキなら作れそうじゃん。

ハニー　(ちょっと納得して)そうか・・・

チェリー　そうだよ。モグタンが壊れた今。俺たちは頭で勝負するって訳。

ハニー　頭で勝負か？

チェリー　汗まみれで、埃だらけで、その上「たがね」っていうのは、どうもねー・・・

ハニー　んーっ。(しばし考え込んで)やっぱり「たがね」。そういう頭脳労働的なのって、俺の芸風にあわない・・・

チェリー　芸風って、あなた・・・

小僧　ハニー！　ハニー！

ハニー　なんだよ！

小僧　目が慣れてきた。

ハニー　そりゃ良かったな。で、どうだそっちの様子は？

小僧　結構広いみたい。

チェリー　いいもん落ちてそうか？

小僧　まだ分からないけど、瓦礫がいっぱいある。あれ、なんだろこれ？

ハニー　どうした？

小僧　重いな、これ・・・　あれ？　これは、もしや！

「ばんっ」という炸裂音！

ハ・チェ　どうした！？

小僧　鉄砲、鉄砲！　ばんっていった・・・

チェリー　てっ、鉄砲？

ハニー　おい、こっちに放れ！　やっ、ちょっと待て！　暴発するかもしれねーから、穴の中滑

らせろ。
小僧　うん。

穴の中に手を突っ込むハニー。でもなかなか銃に手がとどかない。

ハニー　もうちょい勢いつけろって言うの！　おい小僧、穴の中入って・・・　いいや、とどいた。

手をゆっくり引き抜く。手に握られているのは、まごうことなき拳銃である。

チェリー　なんで、こんなもんが？
ハニー　さあ？
チェリー　結構、古そうだな。錆びが浮きまくってるし・・・
小僧　いっぱいあるよ、鉄砲。
ハニー　なんだって？
小僧　いっぱいあるって言ったの！

顔を見合わせるハニーとチェリー。

ハニー　売れるかな？
チェリー　さあ？
ハニー　・・・小僧、俺たちモグタン直して、すぐにそっち行くから・・・
チェリー　あんまり触るなよ。あぶねえし・・・
ハニー　そうそう、その辺りで遊んで待ってろ！　銃には触るなよ！
小僧　うん。分かった。この辺で遊んでます！

モグタンに駆け寄る二人。

チェリー　直るかな？
ハニー　これで穴広げねえと、向こう行けねーだろ。・・・にしても、なんなんだよ。この ER21 地区っていうのは？

チェリーが肩をすくめる。
暗転。

10 Agony mind

ピンクのワニさん。兄がテーブルに向かいコンピュータをいじっている。
チャーミーが現れ、兄の傍らに腰を下ろす。

チャーミ　イチドーさん、いいかい？
兄　どうした？
チャーミ　腕が・・・
兄　ん？
チャーミ　腕が痛むんだ。
兄　耐えられないぐらいか？
チャーミ　ああ・・・(詰め寄って)切断してくれないか、腕。
兄　ハニーやチェリーが泣く。
チャーミ　分かってる。でも、この腕が奴等を引きずり回してるわけだろ。痛てえのは腕より心の方だ。とにかく俺にはこの腕は重すぎるんだよ・・・
兄　プラスターをもっと軽いのに換えるか？
チャーミ　(ため息ついて)・・・そいつは名案だ。沈みきった気持ちまで軽くなりそうだよ。
兄　すまん・・・
チャーミ　あやまんなよ。でも、もう5年だぜ。こんな状態で・・・　ギターの弦を持ってきてくれるんだよ、チェリーがさ・・・　「こんなにどうするんだよ！」ってくらい・・・　あいつ、なにしていいか分からねえだよね・・・
兄　チャーミー、お前も死んじまえばよかったと思ってるのか？　あいつみたいに・・・
チャーミ　グラッジだよ。あいつなんて言うな・・・
兄　どうなんだ？
チャーミ　・・・俺は生きててよかったと思ってる。俺、グラッジが死んだ瞬間を見てるからさ。ありゃ、最悪だった・・・　(ふと)ねーちゃんは？
兄　買い出しだ。
チャーミ　さすがに、ねーちゃんの前ではグラッジの話なんかできねーから・・・　へでもねえって顔はしてるが、ねーちゃんはグラッジの(小指)だったろ・・・　あんた知ってるかい？　グラッジが死んだのあんたの座ってるその椅子の上だったって・・・
兄　・・・・・・
チャーミ　びびんねーな、あんた、ほんと・・・
兄　そんな繊細な神経は捨ててきたんだ・・・
チャーミ　・・・グラッジ、Dead Swine Industory のギター。Under で2番目にすげえギタリストだっ

た。まっ、１番は Malformed Apes のギターの俺だったが（ていうのはうそだけど・・・） ・・・とにかく、Dead Swine Industory は人気があった。ここピンクのワニさんがぞーすい屋なんかじゃなく、まだライブハウスだったころの話だ。チャタバックスの発狂したような歌声、フィアスの殺人的なドラム、そしてグラッジの神経に障るようなギター・・・ 最強最悪の３人組ってヤツだった。俺たちとのライブバトルで、ヤツの腕が抜け落ちるまでは・・・ （遠くを見ていたが、目線を兄に向け） その日、俺が店の外にいたら、中からフィアスの悲鳴が聞こえてきたんだ。店の中に駆け込むと、片腕になったグラッジがその椅子に座ってた。不器用に左腕に拳銃握り締めてさ・・・ 虚ろな目で、銃口を口の中に差し入れて、そしてガチッと・・・ ガチッとさ、前歯で銃口を噛んだんだ。耳をつんざくようなフィアスの悲鳴。チャタバックスが、そっちの壁に立ってたチャットが床を蹴ってグラッジにダイブする。右腕をグラッジの首に巻きつけ、必死になって拳銃を引き剥がそうとする。引き延ばされた時間・・・ 空気がさ、全部ねばねばする液体に変わっちまったかのように、ゆっくりと進行するんだよ・・・ グラッジの手の中で撃鉄が弾みをつけて跳ね戻る。拳銃が発する火花。眩しいぐらいの火花・・・ グッラジの頭が一瞬いびつに膨らみ、そして弾けた。その勢いでチャットは後方の壁まで吹っ飛び、べしゃりと床に落ちた。銃声が俺の耳にとどいたのは、その後だった・・・
グラッジは即死だった。それに、巻き添え食ったチャットもかなりやばい状況だった。グラッジの頭を貫通した銃弾が顎を通って、脳まで達した。それから砕け散ったグラッジの頭蓋骨が喉にめり込んで・・・ 奇跡的に命は助かったけど、代わりに声と感情を失った。二度と歌うことが出来なくなっちまった・・・ いまじゃ、Under イチの狂った殺人マシーンさ。
ほんと最悪だよ。みんな巻き込んで、みんなを永遠に悲しませて、自分一人死んじまうんだから・・・ 俺はグラッジのことは大好きだったさ、ほんとだぜ。でも、最後はほんと最悪だった・・・ だから、俺は絶対にグラッジのような終わり方をしたくない・・・

兄　・・・チャーミー？

チャーミ　退屈させちまったな・・・ じゃっ。（と、去ろうとする）

兄　チャーミー。今度、ボケ防止にキーボードの打ち方でも教えてやるよ。それと、プログラムの書き方とか・・・ まあ、お前は頭悪そうだから、ものになるまで何年かかるか分からないけど・・・

チャーミ　頭の回転はとろいが、タイピングは超高速だぜ。（プラスターを指さして）何せバイオデバイス入りだ・・・

チャーミー退場する。
舞台の上に兄と、チャーミーの「寂しげな笑い」だけが残る。

そして、暗転。

11 Solitude

薄暗い埃だらけの空洞。壁や床には焼け焦げたかのような黒染みが至るところに広がっている。
小僧が瓦礫の中で遊んでいる。腰に紐が結びつけられているので、行動範囲は限定されているようだが・・・
コンクリートの欠片を集め山を作り、それを突き崩す・・・
Solitude−終わりなき一人遊び、疲れを知らぬ永久運動・・・

小僧　(金属の棒を瓦礫に突き立て、それに耳をあてるが、はっと顔を上げ)・・・隊長！　この下から微かな息遣いが聞こえます。「なんだと！？　ほんとうか？」・・・ええ、確かに。この下にパップ君が閉じ込められている模様です。「そうか、この下にパップ君が閉じ込められているんだな。黒い夢の瓦礫の下で苦しんでいるんだ・・・　よし、パップ君救出作戦開始だ！」アイガッチュー！

と、コンクリートの塊を退け、瓦礫を掘り返し、その下から埃だらけの人形を引きずり出す。

小僧　隊長、救出成功です。・・・ですが、パップ君の呼吸が弱くなっています。「人工呼吸だ。きっと大量の黒い夢を飲み込んでいるんだろう。」わかりました。人工呼吸開始！(人形に対して人工呼吸を開始すると、うげげーと人形が何かを吐き出す)やはり、大量の黒い夢を飲み込んでしまったようです。しっかりするんだ。がんばるんだ！　(はっと気付き人形の胸に耳をあてる)隊長！　心音が弱くなっています。それに脈拍も・・・「なに！　心臓マッサージだ！」はい！　(と、心臓マッサージ開始−おい！　そんなにしたら胴体が千切れるんぢゃねーか？)　心臓マッサージ・・・人工呼吸・・・心臓マッサージ！　人工呼吸！　うげげー(人形が何か吐く)　心臓マッサージ！　人工呼吸！　心臓マッサージ！　人工こ・・・(不意に言葉が途切れる。無表情に顔を上げる)隊長！「どうした！？」(悲しげな顔で首を横に振り)　パップ君が・・・　パップ君があ・・・「やはり、だめだったか・・・」(泣く)パップ君が・・・「君のせいじゃない。我々はベストを・・・」パップ君が・・・息を・・・吹き返しました！　「じゃあ何で泣く！」うれし泣きですう。「紛らわしいことするな！」(と、パップ君が元気よく復活)『は一い、僕パップ君。僕を黒い夢から救ってくれてありがとう。ほんと一時はどうなるかと思っちゃったよ。でも、僕には勇気がある。黒い夢に打ち勝つ勇気さ。そうだよ。勇気があれば黒い夢なんてへっちゃらさ！』そうだね、パップ君。僕らは勇気で黒い夢に勝つんだ！　もう泣いたりしない

ぞ！　おー！！（と、雄叫びをあげ、拍手したりするが、急に隊長の号令が響く)「よーし、では、第五次救出作戦を開始しよう。パップ君を埋めろ！　今度はもっと深くだ！」アイガッチュー！

埃だらけの人形をポケットに押し込み、新たな瓦礫の山を築こうと大きなコンクリートの塊を楽しげに持ち上げ始める。と、瓦礫の下に何か見つけたらしく、びっくりして後退る。おそるおそる近づいてみる。最初は大きなゴキブリかと思ったが、どうやら違うようだ。棒で突いてひっくり返す。器状の奇妙な物体。大きさは小僧の頭程度。どうやら危険はなさそうだ。拾い上げてみる。思ったより軽い。小僧は小首を傾げる。「なんだろ、これ？」
音楽「Solitude」が流れ出す・・・
小僧は不意に先日の兄との会話を思い出す。海の記憶を詰め込んだ貝殻の話・・・そうだよ。これは、まさに・・・

小僧　・・・貝殻？　ねえ、これがそうなの？　だって、お兄ちゃん言ってたよね。こんな形のヤツもあるって・・・(パップ君が語り出す)『そうさ、これがそうだ海の記憶を一杯詰め込んだ貝殻さ』・・・海の・・・海の記憶？　ほんとにそうなの？　『ああ、耳にあててごらん・・・』

貝殻をおそるおそる耳に持っていく。
そして、ゆっくりと目を閉じる。
遠くで波の音・・・
遠く、ずっとずっと遠くの方で・・・

12 A matter of doubt

兄に明かりが差す。手に光るディスクを持っている。

兄　　・・・ヤオビクニは KITAZAC に対しある種の疑念を抱いていたようだ。そうとしか解釈できない。Diagnosis−診断−と名付けられたプログラムの更新記録を見つけた。このヤオビクニのデータ RAM の中で・・・ KITAZAC が送ってくる一方的な外部環境データ。このプログラムはそれを統計学的に検証するものだ。膨大な数値の相関から、最低でも三種類の乱数発生プログラムの存在が示唆される。KITAZAC は数値の平均変化に乱数発生プログラムを複雑に作用させ、妥当と思われる数値を捏造している疑いがある・・・つまり、ヤオビクニに対しウソのデータを送り付けている可能性がある。KITAZAC のデータ捏造は作為的なものであるか、それともセンサーの異常により測定不能なデータを仕方なく捏造しているのか・・・ ヤオビクニは気温・地温・湿度の相関に着目する。それらはエレガントなまでに均衡が取れている。まるで計算されたかのように・・・ ヤオビクニは地下都市の気温を一年でほんの三分の一度℃だけ上昇させる。熱交換システムの流量を少しだけコントロールして・・・消費電力を一定に保ったまま、注意深く・・・ これで地温や気温に差が出るはずである。三年にわたる分析の結果、ヤオビクニはこう結論する。「KITAZAC のセンサーの幾つかは明らかに機能を停止していて、KITAZAC はそれに対し何の根本的な対策を取っていない。」自ら目を閉じ、耳を塞ぎ、それがばれぬよう、ただ、データを捏造し続けている・・・ 一体、KITAZAC とはなんなんだ？ 環境浄化を担うこのバイオコンピュータは狂っているのか？ ヤオビクニの診断結果はこうだ。「生物の進化を真似たジェネティック・アルゴリズムに基づく環境浄化システムは、内部矛盾を孕んでいた。本来ジェネティック・アルゴリズムは到達点を規定せず、その過程に重きを置くものなのに、同時に完全浄化という最終目標が決められていたからだ。その矛盾が KITAZAC を狂わせたのだろう」 ・・・理由はどうあれ、外部環境の評価はヤオビクニにも KITAZAC にも出来ないのだ。「この外は浄化されているのか？」・・・この地下都市の中でその問いに答えられるものは誰もいない・・・ そんな中で、プログラム HOPE は走り出した。もとより、環境の完全浄化は起動条件項目にはなっていなかったのだ・・・ それは人類の終焉を引き起こす可能性のある無謀な賭けだった。こう言い換えてもいい、自殺的行為・・・ヤオビクニはプログラムの実行開始には逆らえなかった。プログラム HOPE はもともと入っていたファームウエア、どのような特訓命令を行使してもその停止は不可能だった・・・ それに、どうやら最終隔壁の開閉は KITAZAC に握られているらしい。プログラム HOPE のコマンドラインの最後にはヤオビクニには理解できない命令文が書き込ま

れている。一見シンタックス・エラーと思えるそれは、たぶん KITAZAC に向けてのコマンドだろう。ヤオビクニは KITAZAC との対話を試みる。バイオコンピュータと生体脳との直接交信を可能とするといわれていた超伝導量子干渉計-SQID-に関するデータから自分自身の RAM 上に疑似生体脳を構築し、KITAZAC との通信を企てたんだ・・・だが、それは失敗に終わる。デジタル・コンピュータと自閉症気味のバイオコンピュータは結局、心は通い合わなかった・・・　そしてまた、ヤオビクニもプログラム HOPE の不成功とともに停止した・・・

光るディスクをいとおしげに見つめているが、それを突然手のひらに包み込みと、意を決したように握りつぶす。血の雫が腕を伝って流れ落ちる・・・
暗転。

13 Play innocent !

ピンクのワニさん。女がいる。その傍らでチャーミーが雑炊をすすっている。
ハニーとチェリーは拳銃をきゅっきゅきゅーと磨いている。小僧は貝殻を耳に当て目を閉じている。
そこに登場する兄。

チェリー　にーちゃん、にーちゃん。すごい出物だよ、これ。
兄　(チェリーから銃を渡され)どうした？
ハニー　どうしたもこうしたも、ER21 でさ・・・　武器の墓場って感じだったぜ。
チェリー　半分油漬けになってるのがいくつかあってさ。アンティークとしても申し分ないが、実用もいけるかもよって感じか？
兄　SIG ザウエル P220 か。百年以上前の正式軍用拳銃だな・・・
ハニー　今なんて言ったの？
兄　9ミリ弾丸を9発まで装弾できる。いいアンティークだ。
ハニー　なんなのこの人？　(後退っていく)
チェリー　(後退って)やっぱり、盗みと殺人を生業にしてた人は違うなー・・・
ハニー　City って怖いとこなのね・・・
女　おめえらみてえな品行方正パンクスなんか三分と持たねえだろ？
兄　まっ、City の入り口で即八つ裂きっていったところだ・・・
チェリー　まじすか？
兄　(チェリーに拳銃を突きつけて)うそです。City　は今でも品行方正だよ。(拳銃をくるりと回し、チェリーに渡す)・・・確かにアンティークとしては面白いな。買ってもらえるかどうかは分からないが・・・　でも、実用はあきらめた方がよさそうだ。古いものだし、いつ銃身が破裂するか分からない。まっ、どうせ弾丸ないから撃ちようないか・・・
女　それが、一緒に拾ってきやがってさ。(傍らの木箱を叩く)
兄　(木箱に駆け寄り)・・・9ミリホローポイント。ばっちりマッチ・・・それもこんなに？
ハニー　こんなもんじゃねえって。武器の墓場って言っただろ？
チェリー　遥か向こうまで、てんこ盛り！
ハニー　そこまではいかねえだろ・・・
チェリー　まっ、そだよね・・・
ハニー　とりあえず、明日三幇(トライアド)の方にでも持ち込んで・・・
兄　ちょっと待った方がいいかな。
ハニー　なんで？

チャーミ　・・・今、Under がどうなってるか考えてみろよ。ミヤジマんとこが潰されて・・・

チェリー　・・・雑炊の鍋みてえにぐつぐつってか？

チャーミ　ああ。何処の組でも武器と名のつくものなら、喉から手が出るほど欲しいところじゃねーの？　たとえ銃身が破裂しようともさ・・・

ハニー　おいおい、そいつは需要と供給がアンバランスでインフレ基調って奴じゃん！　俺たちもしかして・・・

ハ・チェ　うはうは！？

女　馬鹿だね。奴等みんな頭に血が上ってるんだぜ。おめえらみたいな抜け作が「美味しいもん見つけちゃったんですよ」なんてボケ面下げて言ってみな・・・　即、銃突きつけられて、ER21 までの添乗員にされちまうよ。

チャーミ　下手すりゃ、片道だけの・・・

兄　そう、少し様子を見た方がいい・・・

チェリー　(ちょっと顔色が優れないぞ)あわわわ・・・

ハニー　どうしたんだよ、チェリー？

チェリー　まずいよ・・・　さっき、三幇(トライアド)の若いのに会った時に、ちょいと匂わせちゃった・・・

ハニー　どれくらい「匂わせた」の？

チェリー　かなり露骨に、割合具体的に・・・　だって、奴等馬鹿だからそれぐらいやらないとだめじゃん？

ハ・チャ　馬鹿は、お前！

チェリー　だよねー、今となっては・・・

ハニー　こうなったら、シラ切り通すほかにねえ。分かってるな、チェリー。もし、三幇の奴等に聞かれたら？

チェリー　「なんすかそれ？」

ハニー　だめだ、頬に不自然な緊張が・・・　もっと自然な感じで・・・

ハニー、チェリーに「シラの切り方」の秘伝を伝授し始める。チャーミー食いかけの雑炊をすする。女は何処吹く風って感じ・・・　兄が不気味に静止している小僧の存在にやっと気付いたようだ。

兄　(女に)どうしたんだ、こいつ？

女　海の音を聞いてるんだと・・・

兄　海の音？

女　そう、貝殻拾ったらしいんだ。その耳にあててるヤツ・・・

兄　何処で拾ったって？

女　　ER21。拳銃と同じ所・・・　どうみても貝殻には見えないけど、本人は・・・　ほら、この前話したじゃん。あの流れでさ・・・

チャーミ　さっきまですごかったぜ。みんなの耳にあれ押しつけて、「聞こえるでしょ？　海の音が聞こえるでしょ？」って・・・

女　　でも聞こえるのは、どうやら小僧だけでさ・・・　ハニーがちょっと邪険に扱ったら、拗ねちゃって・・・

チャーミ　自分自身が「貝の殻」に閉じこもっちゃったって感じ？

女　　！　（指を一本立てて、「うまいこと言うね、あんた」の仕草）

兄が小僧に近づき、肩に手を置く。
マジびっくりする小僧。

小僧　　あっ、お兄ちゃん。びっくりさせないでよ！

兄　　貝殻拾ったんだって？

小僧　　うん。これ！　ねえ、そうでしょ？　お兄ちゃんが言ってたのとそっくりだよ。

兄　　ああ。（ちっとも納得していないが、大人だからさ）

小僧　　こうやって耳に当てると、海の音が聞こえてくるんだ・・・　遠くの方から、どんどん近づいてくる・・・　目を閉じるとまるでそれが見えて来るみたい・・・　ねえ、お兄ちゃんも聞いてみる？

兄　　（小僧から貝殻を受け取り、耳にあてがう）・・・・・・

小僧　　ねっ？　ねっ？　お兄ちゃんなら聞こえるでしょ？　みんな聞こえないって言うんだ。ぼくが勘違いしてるって言うんだ。おかしいよね、こんなにはっきり聞こえるのに・・・

兄　　（やはり何も聞こえては来ない）・・・・・・

小僧　　海って大きいよ。とっても大きい・・・　想像してた以上だよ。

兄　　そうだね・・・（耳から外し、まじまじと見る）

小僧　　（兄から受け取り）・・・お兄ちゃん、もしかして。聞こえなかったの？　お兄ちゃんも聞こえなかったの？

兄　　ちゃんと聞こえたさ・・・

小僧　　よかった。（みんなに、自慢げに）みんな、お兄ちゃんは聞こえたって！　ぼくはうそつきじゃないだろ！

小僧、また、貝殻を耳に当て、目をつぶる。
遠くから海鳴りが響いているような気がする。
いや、気のせいだろうか・・・
舞台がゆっくりと暗転していく。

14 Intervals of fits

舞台の上にチャタバックスとフィアス。傍らに女。

女　・・・じゃあ、ミヤジマの所も、センダイも、すべて？
フィアス　そうだよ。チャットとあたしで楽しませてもらったよ・・・
女　あの男の差し金かい？
フィアス　ああ、そうさ。
女　どうして、わたしを通さないで？
フィアス　もう、やめにしようぜ。そういうの・・・　もういいじゃんか。
女　・・・・・・
フィアス　もともと嫌だったんだよ。あんたに世話焼かれんの・・・　気持ち悪いぐらいの世話焼きじゃん。あのくたばりぞこないまで世話しちゃってさ・・・
女　くたばりぞこない・・・
フィアス　ゼンジーのことだろ！　あのくそ野郎のことだよ！　・・・分からないんだよ。何であんたがあのじじいに只飯食わしてやってんのかって・・・　だって、あいつはグラッジ殺した張本人だぜ。あいつがグラッジの腕にばったもんのデバイスなんてぶち込んだから・・・
女　違うよ。グラッジは自殺したんだ・・・
フィアス　違いやしねえよ！　グラッジが死んだのも、あんたがライヴハウスたたんじまったのも、チャットの声だって、もとはと言やあ、全部あいつが・・・　あいつの所為じゃねえか！
女　フィアス！
フィアス　とにかく気にくわねーんだよ。あんたがあのじじいと仲よくしてんのかと思うと虫酸が走るんだ。帰れよ。もうあんたの世話になんかならない。（札束を投げつけ）持ってけよ。手切れ金みたいなもんだ。
女　・・・・・・
フィアス　突っ立ってんじゃねえ！　出口はあっちだぜ！

フィアスが銃を抜き女に銃口を向ける。
と、チャタバックスの銃口がフィアスに向けられる。
フィアス、それに気付き・・・

フィアス　（驚いて）・・・チャット？　誰に銃向けてるんだい？　あたしだよ、フィアスだよ・・・

チャタバックスの銃口はフィアスに向けられたまま、微動だにしない。

フィアス　チャット！

と、チャタバックスの腕に小さな痙攣が走る。痙攣の波は見る間に全身に波及し・・・

女　ど、どうしたんだい？
フィアス　やばい、いつものだよ！

海老反るようにどうと倒れるチャタバックス。それに駆け寄るフィアス。てんかん発作に苛まれたチャタバックスの身体を足で押さえつけ、腕を引き寄せる。

フィアス　早く、顎を踏みつけるんだ！　舌噛み切っちまうだろ！

しかし、女は動けない・・・

フィアス　何やってるんだよ！　畜生！

と、チャタバックスの下顎を床に踏みつける。何処から取り出したのかフィアスの手に圧力注射が握られている。注射がチャタバックスの腕に押しつけられ、そして圧搾空気の漏れる音。チャタバックスの痙攣がゆっくりと収まっていく・・・　きつく握り締めていたチャッタバックスの腕を放し、ひざまずくフィアス。チャタバックスの額に手を置き・・・

フィアス　もう大丈夫だよ、チャット。怖かったろ？　でも、もう、大丈夫・・・

虚空を見つめるチャタバックス・・・

フィアス　・・・とにかく、これからはあんた通さずにヤツと一緒に行動する。
女　仲介無しで直接あの男と？
フィアス　ああ。
女　フィアス、死にたいのかい？　あいつがもし・・・
フィアス　あんたが仲立ちに立ってくれてたのには感謝してる。チャットとあたしを守ってくれてたんだろ。ほんと、いつ寝首かかれるかわからねえような危ねえ仕事だし・・・　あたしらの居場所を聞き出そうとして、誰かがあんたを締め上げたところで、あんたは絶対口

を割らない。たとえ、手の指一本ずつ切り落とされたって、あんたは声すらあげない。分かってるよ。あたしらはあんたの背後にいる限り、絶対安全だって・・・　でも、もういいんだ。

女　　もう？

フィアス　ああ、もういい・・・　どんどん短くなってるんだ。

女　　？

フィアス　（女の顔を見て）チャットの発作の間隔が・・・

女　　フィアス・・・

フィアス　（目をそらし）・・・早く行きな。

女　　・・・・・・

フィアス　行けって言ってるだろ！

女が退場する。

暗転。

15 Remember the blue sea

舞台の上で鰓瀬がコンピュータ映像の光の中に浮かんでいる。

鰓瀬　・・・地球環境の壊滅的な悪化により、人類は百年前に地下、すなわち我々が Junk Metal City と揶揄するこの地下都市に閉じこもった。同時に地上では環境浄化システムによる環境修復が試みられた。そしてその環境修復を統括していたのが・・・

声　KITAZAC。

鰓瀬　バイオコンピュータか・・・

声　バイオチップを立体的に集積したメモリーベース・アーキテクチャと予想されます。

鰓瀬　デジタル・コンピュータではなく、人間の脳に近い作りと言うわけだ。

声　地球環境の浄化は複数のケミカル・プラントいわゆる化学工場により行われます。あるケミカル・プラントが汚染源を代謝し他の物質に変換する。その産物他のケミカル・プラントが代謝する・・・　汚染物質を食物とした、ケミカル・プラントによる食物連鎖と言えます。

鰓瀬　化学工場が作り上げる生態系か・・・　面白い。それが競争と協調を繰り返しながら汚染環境を浄化していく・・・

声　それぞれのケミカル・プラントは自己増殖能を持っています。環境に適合したものは代謝活性を更に増加し、適合しなかったものは消滅します。また、これらはフィードバックによる変化の能力も有しています・・・

鰓瀬　あたかも生物の進化ように？

声　環境へ適応するためケミカル・プラントは絶えず変化し続けます。

鰓瀬　KITAZAC はその進化を管理していた？　(笑って)まさに「神」だな。ケミカル・プラントたちの「神」・・・　「神」ならば天国への門、ER21 を開ける鍵を握っていたとしても不思議はないな。で、KITAZAC とのコンタクト方法は？

声　不明。

鰓瀬　ヤオビクニと KITAZAC との通信記録があるだろう？

声　KITAZAC から一方的に発信されたと思われる外部環境指標の数値データの一部が保持されているだけです。

鰓瀬　五年前、あのクローンは通信ケーブルを首の後ろのスロットに差し込み、ER21 を開けようとしたんだ。もし、その扉の開閉を KITAZAC が管理しているとしたら、奴はそのバイオコンピュータとのアクセスを試みているはずだ。プログラム HOPE の最終コマンドブロックをもう一度調べ直せ！

声　はい・・・(検索／分析が開始される・・・)

鰓瀬　(ひとりごちて)・・・どういうことだ？　どうして、バイオコンピュータとのコンタクトの方法

が分からないんだ？　・・・一堂、こんな時お前がいてくれたら・・・

検索／分析が終了する。

声　　バイオコンピュータとのアクセスに関係すると思われるコマンドブロックは見付けられませんでした。ただ、プログラム HOPE の最終行に以下のような TEXT が確認されます。Remember the blue sea・・・ 「青い海を想起せよ」

鰓瀬　　青い海を想起せよ・・・ 「あの青い海を思い出せ」か、気が利いてる。

声　　しかし、これはプログラムではなく、作者のコメントのようなものであり、無視できるもので・・・

鰓瀬　　いや。それこそ、真の「最終コマンド」だ。

声　　シンタックス・エラーです。コマンドとしては文法的に間違いがあります。

鰓瀬　　デジタル・コンピュータの OS はそう認識するに決まっている。だが、そのコマンドは、バイオ・コンピュータつまり KITAZAC に向けて放たれるものだ。第五非常扉、あの最終隔壁を開けるために・・・

声　　理解不能です・・・

鰓瀬　　扉を開けるための「呪文」・・・ いや、「祈り」だ。扉を司る神は祈りを要求する。「青い海を想起せよ」・・・それが「祈り」の言葉だ。そして、「祈りは聞かれる」。扉が開かれるのだ・・・ 通信ケーブルを首の後ろのスロットに差し込んだ、あのクローンはあの時、この「祈り」を KITAZAC に伝えようとしたんだ。自らの生体脳でバイオコンピュータと繋がろうとした・・・ そうだったのか・・・ 扉を開くために必要なもの。それは、いにしえのディスクドライブや従来のバイオ／エレクトロニック・コンバーターなどではなく・・・ 生体脳に直結したバイオデバイスなんだ・・・

ほくそ笑む鰓瀬。まるで勝ち誇ったよう・・・
舞台が急速に暗転する。

16 His precious box

椅子に座ってゼンジー。口を大きく開けて、遠くを眺めてる。
心はここになく、遥か遠く、または遠い過去・・・
ひょっこり顔を出す小僧。

小僧　ゼン・・・(呼びかけようとして止める)。おねーちゃん、ゼンジーがまた壊れてるよ！　おねーちゃん！　(返事がない)・・・おねーちゃん、いないのか。

ゼンジーは口を大きく開けたまま、遠くを見ている。
小僧はポケットからビー玉を取り出し、ほくそ笑む。
ビー玉を手のひらで転がしつつ、忍び足でゼンジーに接近する。
んでもって、そのビー玉を鼻の穴に詰める。
んでもって、腹を抱えて笑う。
ふと、ゼンジーが手に雑炊の椀を持っていることに気付いてしまう。
椀ごと口の中に入れようとするが、上手く行かない(そりゃそーだ！)
しょうがなく、スプーンですくって口の中に雑炊を入れてみる・・・
自動人形のようにゼンジーが咀嚼を開始する。鼻にビー玉突っ込んだまま。
それを見て、腹を抱えて笑う。
ゼンジー、咀嚼を完了し、それを嚥下する。
小僧が転げながら笑っている・・・
嚥下後、ゼンジーの口がぴたりと閉じる。それが不幸の始まりか？　ゆっくりと顔が紅潮してくる・・・
小僧はまだ笑い続けている・・・
ゼンジーの状況は深刻なものになってきている。こめかみに血管が浮き出し始める。
そして、ビー玉がびっくりするような勢いで鼻穴から発射されるのであった。
不意の爆裂音に驚き、ゼンジーを凝視する小僧。ゼンジーはまた口を大きく開けたまま、遠くを見ている。小僧は床に転がるビー玉を電光石火の早業で拾い上げ、もう一度鼻の穴に詰めようと、ゼンジーに駆け寄る。図らずも見逃してしまった「発射の瞬間」を目撃したくて仕方ないのだ。それは小僧の頭の中で瞬時に「エンデバー作戦」と名付けられたが、その時、ふと、小僧は指先に奇妙な触感を覚えた。
粘っている！　ビー玉の表面にゲル状の・・・
不測の事態に「エンデバー作戦」は中止に追い込まれた。小僧はビー玉を椀の中に捨て、指先をゼンジーの衣服で幾度も拭う。

ゼンジーは口を大きく開けたまま、遠くを見ている・・・
小僧はふと、ゼンジーが手に小さな箱を握り締めていることに気付いちゃう。
奪い取ろうとするが、ゼンジーはなかなか手強い・・・
小僧はちょっとへとへとになっちゃう。

小僧　なんだよ、ゼンジー。壊れてるわりにストロングぢゃん！　なんなのさ、この箱？
ゼンジー　(唐突に)ゼンジーの大切な物。
小僧　(めちゃめちゃびっくりして)ゼンジー！　な、な、なんだよ、壊れてたはずなのに・・・
ゼンジー　さっき電源入ったあるよ。(箱を抱き締める)
小僧　なんか気になるな、その箱。何が入ってるの？
ゼンジー　話したことなかったあるか？
小僧　うん。何？
ゼンジー　ないしょ。
小僧　ずるい。じゃあ、ぼくの大切な物を教えるから、かわりに教えて。
ゼンジー　それならいいあるよ。
小僧　(大事そうに貝殻を取り出し、差し出す)・・・これ、貝殻。
ゼンジー　貝殻？
小僧　うん。こうやって耳にあてると、海の音が聞こえるのさ！
ゼンジー　(耳にあてるが)・・・何も聞こえないあるよ。
小僧　え一っ、ゼンジーもだめなの！　ぼくとお兄ちゃん以外は聞こえないみたいなんだ。なんで他の人には聞こえないんだろう？　も一いい。返して！　(と、貝殻を奪い取る)　さっ、今度はゼンジーの番だよ。ゼンジーの大切なこの箱の中身はなんですか？
ゼンジー　・・・天使の羽。
小僧　えっ？
ゼンジー　天使の、羽。
小僧　ぬぁにい？
ゼンジー　とぅえんしのふぁね。
小僧　なんだそれ？
ゼンジー　ゼンジーを空の上の方まで連れていってくれるもの・・・
小僧　空って、この外の？
ゼンジー　そうある。
小僧　どんな形なの？
ゼンジー　白くて、ふわふわしてて、こんな感じあるよ。
小僧　そんなんが、こんな箱の中に？　どう折り畳めば入るの？　それとも空気でぷ一って膨らますタイプのやつ？　見たい、見たい・・・

ゼンジー　これはゼンジーの宝物。ゼンジーにしか見えない・・・
小僧　ぼくの貝殻と同じ？　海の音はぼくにしか聞こえない・・・
ゼンジー　そうかもしれないある・・・　ゼンジーは空へ行きたい。だから、天使の羽が見える・・・
小僧　ぼくは海へ行きたい。だから、海の音が聞こえる・・・
ゼンジー　さしずめ、(自分指して)空派、(小僧指して)海派と言うところあるよ・・・
小僧　「は」？　歯？
ゼンジー　「は」は「は」！　(変なの・・・)
小僧　はははっ、良くわかんないかけど、いいや。　ねえ、ゼンジー。もう一回だけ聞いてみてよ。真剣にだよ。ゼンジーなら聞こえるかもしれないじゃない・・・

貝殻をゼンジーの耳に押しつける。困った顔をしながらも、小僧の言うことを聞く、ゼンジー・・・
そこに、女が登場する。駆け寄る小僧。

小僧　あっ、お帰り・・・　(顔色が悪いのに気付き)どうしたの？　顔青いよ・・・
女　・・・そうかい？　青いって言うよりくすんでるって感じだろ？　ほら、もう歳だし・・・
小僧　そうだね。そろそろ「雑炊屋のねーちゃん」じゃなくて「雑炊屋のおばちゃん」って呼ばれる日も近いね。
女　(小さく、だが確実に)お前、殺す・・・
小僧　(意に介してない)ねえ、ねえ。おねーちゃんは「うみは」、「そらは」？
女　なんだそれ？
小僧　ぼくは海の音が聞こえるから「うみは」、ゼンジーは天使の羽が見えるから「そらは」。で、おねーちゃんは？
女　良くわかんないね・・・
小僧　ねえ、おねえちゃんの「パップ君」は何処に連れて行ってくれるの？
女　ん？
小僧　だから、「パップ君」は・・・
女　パップ君はわたしをここに連れてきてくれた・・・
小僧　ここに？　夢がないな・・・
女　パップ君はもうあんたのもんだろ？　だから・・・
小僧　違うよ。ぼくは借りているだけ、パップ君がそう言っている。パップ君はおねーちゃんをどこか行きたい場所に連れて行ってくれるよ。
女　行きたい場所？　(小さな声で)「死に場所」・・・それはあの男のセリフか。
小僧　ん？　何て言ったの？
女　なんでもない。　・・・行きたい場所ねえ。んー、「光の中」かね。

小僧　　なんで、「光の中」？
女　　まぶしい明かりの中だと肌のくすみとかシワとか目立たなくなるだろ。
小僧　　(肩をぽんぽん叩いて、何度も頷く)結構気にしてるのね・・・

その時不意に、ゼンジーが小さな悲鳴を上げる。

小僧　　どうしたの？
ゼンジー　びっくりしたある。なんかビリッと来たある・・・
小僧　　ビリッと？
ゼンジー　これ、なんか変ある。貝殻とかじゃないかもしれないあるよ・・・
小僧　　(ゼンジーから貝殻を奪い取り)もー、ゼンジーったら、変なこと言わないでよ。

小僧、貝殻を大事そうに耳に当て、そしてゆっくりと目を閉じる。
暗転。

17 A spontaneous discharge

舞台の上に女と鰓瀬。

女　ゼンジー？　知らないねえ、何処に住んでるかなんて・・・　イレイズ。ゼンジー商会なんて遥か昔の話さ。いまさらゼンジー探し出したところで、どうにもならないよ・・・　なんて言ったっけ、その・・・

鰓瀬　KITAZAC・・・

女　バイオコンピュータだっけ？　作りが私のおつむに似てるって・・・　それじゃ、対して役にも立たなかったろ。

鰓瀬　しかし、それが隔壁の開閉を管理しているとなるとね・・・

女　いいかい、あんた。この街と地上とを隔ててる扉開けてどうしようって言うんだい？　人類滅ぼそうって腹か？

鰓瀬　我々がここに閉じこもって何年になるか分かるか？

女　さてね・・・

鰓瀬　百年をちょっと越えたぐらいだ・・・　そろそろ、外に出てもいい頃じゃないか？

女　この街の中で外の環境が浄化されてるなんて思ってる粗忽者はあんたぐらいのもんだよ。

鰓瀬　我々はもう限界に達してるんじゃないか？　お前だって「黒い夢」を見るだろう。それは警告なんだ・・・

女　イレイズ。あんた、何様かしらないけど、今すぐ City に帰りな。それがいい・・・

鰓瀬　これは重要な約束なんだ、だから・・・

女　約束は破るためにあるんだろ。さあ、出て行ってくれ。・・・ここはぞーすい屋だよ。喰わないんだったら、出て行ってもらえないかい？

女、銃を構える。

女　私は、私なりに鶏冠に来てるんだよ。札ビラで人の面をひっぱたくみたいにして生きてる「City からのお忍び」の男に・・・　いい気になって Under 引っ掻き回すのは仕舞いにしてくれないか？

鰓瀬　・・・お前には撃てないだろう。

女　どうだか・・・・・・

銃口を鰓瀬に向けたまま、手にした銃をテーブルに軽く叩きつけ始める。

女　　確かに引き金を引くことは出来ないかもね。でも勝手に飛び出ようとする弾を止めることだって出来やしない。だって、わたしゃ神様じゃないからね・・・　この銃は見ての通りの百年前のぽんこつで、安全装置もろくなもんじゃない。ほんのこれぽっちの振動で暴発して、あんたの薄い胸に風穴開けちゃうかも・・・

銃把を握り締め、その底をテーブルにこつこつと打ちつけ続けている。
それを見て、両の腕を挙げ、そして笑い出す鰓瀬。

鰓瀬　　ははは・・・　面白い。面白い人だ。あなたは・・・　分かったよ。退散するよ・・・

鰓瀬、俯きながら退場する。
入れ換わりに、小僧と兄が入ってくる。
出ていった黒いコートの男の背中を不思議そうに見つめる兄。

小僧　　おねーちゃん・・・（と、銃に目をやり)わっ！
女　　ごめんごめん。(と銃をしまう)
小僧　　どうしたの？　銃なんか・・・
女　　ちょっと危ない奴が入ってきてさ。
兄　　さっきのか？
女　　ああ。
兄　　誰なんだ？
女　　気にすんな。大した奴じゃない・・・　ただちょっと危ないだけ・・・
兄　　今にも破裂しそうとか？
女　　そうだね・・・　まっ、この街の連中はみんなそうか。
小僧　　そうだよ。トライアドとか、オノとか、街中なんかすごい物騒な感じ・・・　ほんと今にも破裂しちゃいそうだよ・・・　どうしてかな？
兄　　ここ数日、特にそうだ。やはりミヤジマの壊滅が引き金か？
女　　それもそうだけど・・・　ほんとに怖いのはそのミヤジマの残党みたいよ。方々で問題起こしまくってるそうだ・・・　小僧も気を付けな。
小僧　　分かってるよ。危ないところには絶対近づかないもん。
女　　一見安全なところだって、そうさ・・・　安全装置がかかった拳銃だって、時には暴発する事だってある・・・

拳銃を見つめる女。

ゆっくりと暗転していく。

18 Someone in the shell

舞台の上に兄が一人。そこのひょっこりと現れる小僧。

小僧　・・・お兄ちゃん。「しんか」って何？
兄　？
小僧　し・ん・か。
兄　どういう意味の「しんか」だ？
小僧　それが分からないから聞いてるんだろっ。
兄　でも、どうしてまた？
小僧　貝殻の中の人がそう言ったの・・・
兄　貝殻の、何？
小僧　(貝殻を指し示し)この中の人！
兄　は？
小僧　(貝殻を仔細に調べる仕草)この中に、きっと小さな小人が入ってるんだと思うよ・・・
兄　この中に小人？
小僧　うん。
兄　で、その小人が「進化」なんて言葉を言うのかい？　ははは・・・
小僧　だったら、お兄ちゃんも聞いてみればいいじゃない。(貝殻を差し出す)
兄　(笑いつつ、それを受け取り)一体お前何処でそんな言葉・・・

と、兄の言葉が不意に途切れる。貝殻を見つめて呟く・・・

兄　・・・進化。
小僧　それでね。その小人が、こう言うんだ・・・「しんかは盲目だ」って・・・　その人はね。しんかっていうのを見届けるために自分で目を潰したんだって。変だよね？　見るために目を潰すなんて・・・　見れなくなっちゃうじゃない。それにその人は耳も聞こえないんだって・・・
兄　耳も自分で？
小僧　そうみたい。変な人だよね・・・　でも、いい人。　変だけどいい人。そう感じるんだ・・・
兄　(ひとりごちて)自ら目を閉じ、耳を塞ぎ、それがばれぬよう、ただ、データを捏造し続けている・・・　KITAZAC か？　データ RAM の中に確か、こんな記述があった・・・　バイオコンピュータとダイレクトに接続する方法のひとつとして超伝導量子干渉計-SQID-を用いるものがあると・・・　SQID は脳内の活性部位を測定する装置でそのパターンに

より、意識の伝達を行う・・・　KITAZAC はその SQID を通して、我々の生体脳と直接交信できる・・・

小僧　（兄が怖い顔になっているの気付き）・・・どうしたの、お兄ちゃん？

兄　いや、何でも・・・　ちょっと貸してくれないか？

小僧　うん。いいよ・・・

兄、貝殻を小僧から受け取り、耳にあてる・・・　しかし、何も聞こえては来ない・・・

兄　だめだ。何も聞こえては来ない・・・　なあ、どうすれば小人の声が聞けるんだ？

小僧　聞こうとしたって聞こえない。それは声じゃないから・・・

兄　声じゃない？

小僧　小人が使っているのは言葉じゃないんだ。

兄　言葉じゃない？

小僧　うん。だから、聞くんじゃなく、感じるんだ・・・

兄　その小人は他には何て言ってた。だから、他に何か聞いた、いや、感じたことは・・・

小僧　いろんなこと・・・　でも、よく分からないことが多いんだ・・・

兄　例えば・・・

小僧　んー・・・　よく思い出せない。海のことと空のことならよく分かったんだけど・・・　ねえ、お兄ちゃん、空ってどんな色か知ってる。変わるんだよ、いろいろ・・・　その中を鳥が飛んでたんだよ。白い奴・・・（急に何かに気付く）あっ、そうだ、空のことゼンジーに教えなきゃ。ゼンジーは「そらは」だから・・・　今日、ゼンジーに「天使の羽」を見せてもらうって約束してたんだ。そうだそうだ。「天使の羽」って知ってる？　白くてふわふわで、こんな感じなんだよ。お兄ちゃん、それ返して！　ぼく、ゼンジーのところへ行ってくる。（兄の手から貝殻を奪い取る）喜ぶだろうな、ゼンジー。空が見えたって言ったら・・・

兄　（小僧が駆け出そうとするのを制して）・・・ちょっと待ってくれ。それ、その貝殻について小人は何か言ってなかったか？

小僧　これ？

兄　その名前・・・　SQID って呼ばなかったか？　スクイド・・・

小僧　すくいど？　なんだそれ？

兄　なあ、聞いてみてくれないか？　その中の人に、SQID について・・・

小僧　だめだよ。言葉は通じない。通じるのは「思い」だ。ぼくは「すくいど」なんて知らないから伝えられないよ。それに、これはそんな変なもんじゃない。これは、「貝殻」だよ・・・じゃあ、行ってきまーす。

脱兎のように駆け去る小僧。それを見つめる兄。

兄　（呟くように）KITAZAC・・・　お前なのか？　あの貝殻の向こうにいるのは？　教えてくれないか？　扉を開くために何故、お前にアクセスしなければならなかったんだ？　それはお前が外部環境の浄化と隔壁の開閉を司っているからか？　たった、それだけか？　五年前、もし、わたしがあのクローンを殺さず、彼女がお前へのアクセスに成功したら、お前は扉を開いたのか？　お前は外部環境がどうなっているのかも知らないのに・・・　それでも開くのか？　「青い海を想起せよ」という命令で・・・（はっとして）待て・・・　あの子はさっきなんて言った？　「言葉」は通じない。通じるのは「思い」だ・・・じゃあ、「青い海を想起せよ」という命令は・・・　その命令は・・・　プログラム HOPE の最終コマンドラインはもうひとつの意味を含んでいるのかもしれない・・・　扉開閉のためのもうひとつの検証。それが確かめられなければ扉は開かない・・・　だとすれば、もう扉は・・・　あのクローンが死に、ヤオビクニが停止してしまった今となっては、もう誰も・・・　誰も・・・

沈痛な面持ちの兄。闇が彼を包む込む・・・

19 Light as a feather

舞台の上にゼンジーが転がり込んでくる。鼻水がたれている。いや、鼻血か？
銃を構えたチャタバックスとフィアスが登場し、次いで黒コートの男(鰓瀬)が現れる・・・

ゼンジー　知らないある！
鰓瀬　なんでもいい。思い出すんだ。
ゼンジー　何を思い出せ言うあるか？
鰓瀬　KITAZAC。
ゼンジー　？
鰓瀬　ヤオビクニとは別の機械知性。
ゼンジー　そんなもん知らないある・・・
フィアス　(銃把でゼンジーを殴り、即座に銃口を突きつける)じいさん。早くゲロってすっきりしなよ。
鰓瀬　止めろ、フィアス。怯えているだろう・・・ (ゼンジーに近づき、優しく囁くように)5年ほど前の話だ。お前のところには若いテクがいたはずだ。
ゼンジー　・・・・・・
鰓瀬　名前は確か・・・信。
ゼンジー　(何度も頷く)
鰓瀬　有能なハッカーで、メインフレームへのハッキングや脱税などネットワーク・クライムのコンサルティングもしていた・・・ あの当時、Under の No. 1 ハッカーと言っても良かった・・・
ゼンジー　(怯えながらも)・・・そうある。信ちゃん一番だったある。今でも、一番ね。
鰓瀬　(ゼンジーの頬に触れ)そうだ、ゼンジー。信ちゃんは一番だ。その信ちゃんが、バイオ・コンピュータについて何か言ってなかったか？
ゼンジー　(首を振る)
鰓瀬　KITAZAC。そんな名前を聞いたことはなかったか？
ゼンジー　知らないある。KITAZAC なんて聞いたことないある・・・
フィアス　(ゼンジーの胸ぐらを掴み、銃口を突きつける) とぼけてるんじゃねえ。ゼンジー、ボケたふりが通用するのはあの雑炊屋の中だけだ。あたしはあんたのこと・・・
鰓瀬　フィアス！　止めろと言ってるだろ！
フィアス　・・・・・・(怒ったように手を放す)
ゼンジー　知らないある。ほんとに・・・
鰓瀬　そんなはずは無いんだが・・・ 信ちゃんはモレキュラー・エレクトロニック・デバイスに

関しての知識も相当なものだった。知ってたんだよな、バイオ・コンピュータについて・・・

ゼンジー　知らない。信ちゃん、きっと Under に来る前、City のテクだったあるよ。記憶喪失になる前の知識あるよ。その時の記憶ちょっとずつ思い出して、だからあんなことできたあるよ・・・

鰓瀬　何が出来たって？

ゼンジー　人体組織の改造とか・・・

鰓瀬　人体改造か・・・　どうやって？

ゼンジー　分からないある。小さな生体部品を埋め込んでた、内臓とか筋肉に・・・

フィアス　・・・・・・

鰓瀬　小さな生体部品？　シリコン・ウエハーか？

ゼンジー　違う。タンパク質とのハイブリッドね、きっと・・・

鰓瀬　バイオチップか。普通のバイオ／エレクトロニック・コンバーターではないな・・・　そして、それが KITAZAC との通信用アップリンク・チップとして使える可能性があるわけだ・・・　ゼンジー、それについての情報は？

ゼンジー　知ってるの、信ちゃんだけ・・・　ほんと、信ちゃんだけ・・・

傍らで座っていたチャタバックスが傍らの小さな箱を掴み、不思議そうに眺めている。ゼンジーそれに気付き、それをひったくるように取り戻す。チャタバックスは反射的に拳銃を引き抜くが、小箱を胸に抱き震えているゼンジーを撃たず、不思議そうに見つめる・・・

ゼンジー　これはだめある。大切な物。ゼンジーの命より大切な物・・・

鰓瀬　命より？　何が入っている？

ゼンジー　大切な物・・・

鰓瀬　見せてくれないか？

ゼンジー　いやだ！

鰓瀬　頼むよ、ゼンジー。奪い取りはしないから・・・

鰓瀬が指を鳴らす。間髪入れず、フィアスの銃弾がゼンジーの右肩をえぐる。
肩をおさえ、倒れ込むゼンジー。

鰓瀬　さあ、ゼンジー(手を差し出す)

ゼンジー　だめ、これはゼンジーの！　ゼンジーの・・・

逃げようとするゼンジーをもう一発の銃弾が貫く。
フィアスの銃口から硝煙があがっている。
静かに、不気味なほど静かにフィアスが語り出す・・・

フィアス　・・・グラッジのことを憶えているかい？　あんたらが、その生体部品とやらを腕に組み込んだ場末のパンクスだよ。奴がギターで、このチャットがヴォーカル、そしてこのあたしの３人でバンド組んでた。結構売れてたんだぜ・・・「アクセラレータ」・・・グラッジはそう言ってた。「２４０のビートで、刻めるんだぜ。それもダウン・ピッキングだけで・・・１秒間に8回だぜ」そう自慢してた。腕の痛みこらえて、限界超えるまでギターかき鳴らして、そして、右腕が腐って落ちた・・・　根っからのギター弾きだろ。だから、片腕の自分が許せなかった・・・　自分の頭撃ち抜いちゃってさ。そこにいるチャットは、その時グラッジ助けようとして、とばっちり食っちゃってさ・・・　歌うために生まれてきたような奴なのに、流れ弾に喉と脳みその一部を吹っとばされちゃって・・・　たった一個のバイオチップが、あたしらの人生、めちゃめちゃにしちまった・・・　めちゃめちゃになったのはあたしらだけじゃない。あんた知ってたかい？　雑炊屋のねーちゃん、死んだグラッジのかみさんだったんだよ・・・

ゼンジーがゆっくりと顔を上げる。痙攣の走る顔面からふと無駄な力が抜ける・・・

ゼンジー　そうあるか・・・　そうだったあるか・・・

ゼンジーがゆっくりと振り返ろうとする。フィアスの銃口が火を吹く。
箍が外れたように全弾をゼンジーに撃ち込む。左手で新たな拳銃を引き抜きもはや骸と化したゼンジーに銃口を向ける。
チャタバックスが左腕をあらぬ方に伸ばし、必死にフィアスに何かを訴えかけようとしている。だが、フィアスはそれに気付かない・・・

フィアス　さあ、チャット！　撃ちまくろうぜ！　どうした、チャット？　いつものチャットなら面白がって、「撃ち尽くし」だろ！

チャタバックスはフィアスに何かを訴えかけようとしている・・・
フィアス、それにかまわず、引き抜いたばかりの新たな拳銃を撃ち始める。
鰓瀬、それを止めようと、右の逆手でフィアスの頬をカー杯殴る。
倒れるフィアス。

鰓瀬　止めろ！　まったく、Under イチの屠殺人が聞いて呆れる・・・(ゼンジーの骸に近づき、小箱を拾い上げる)・・・ゼンジーの「命より大切な物」がめちゃめちゃじゃないか。

鰓瀬、壊れた小箱を開く。その中には幾葉かの羽毛が入っている。

鰓瀬　羽？　これが命を賭して守ろうとしたものか？　たしかに人の命のように軽い・・・(手にした羽毛をゼンジーの上で放す)

フィアス　イレイズ。あたし知ってる。バイオチップの在り処・・・

フィアスを見る鰓瀬。フィアスは放心したように虚空を見つめている。
チャタバックスは、まだ何かをフィアスに伝えようとして必死になっている・・・
ゼンジーの死体の上に白い羽毛が降って来る。
純白の羽に血が滲む・・・
そして、舞台は溶暗する。

20 I put my trigger...

ピンクのワニさん。
ハニーがチェリーを抱え、飛び込んでくる。
チェリーは鼻血を流しているようだ・・・

女　・・・！　どうしたんだい？
ハニー　トライアド・・・
女　まさか・・・
ハニー　例のお宝の件で、からまれちゃって・・・　ねーちゃん、タオルとちり紙。

ハニー、チェリーを横たえる。女、タオルとちり紙を探し出し、ハニーに渡す。ハニーちり紙を丸め、チェリーの鼻に突っ込もうとする。

チェリー　・・・自分で出来るよ。
女　大丈夫かい？
チェリー　ああ、骨は折れてねえ・・・　すんでのところで、ヒーロー（ハニー）が登場したからさ。
女　あんたのことだから、また軽口たたいたんだろ？
ハニー　そうじゃねえ。奴等少しおかしくなってる・・・　俺たちが見付けた銃のことであんなに熱くなるなんて、尋常じゃねえ・・・
女　・・・・・・
チェリー　ハニー、すまん。俺がもう少し気を付けてれば・・・
ハニー　いいって・・・　(拳銃を引き抜いて)畜生、こんなもんなんか見付けなけりゃよかった・・
女　ハニー・・・
ハニー　奴等がここにやってくる・・・　俺たちすぐ出ていくからさ。ここにゃ戻ってきてないことにしてくれ。
女　出ていくって？　トライアドの連中だろ？　あたしが話せば、どうにか・・・
ハニー　どうにもならねえ・・・
女　トライアドはやくざだけど、ちゃんとした組織だよ・・・
ハニー　(首を横に振る)・・・・・・
女　どうしたんだい？
ハニー　・・・これ(銃)、使っちまった。
女　なんだって？
ハニー　若いのの腹、撃った・・・

女　　・・・・・・

チェリー　ねーちゃん、ハニーを責めないでくれ。もし、ハニーが撃たなきゃ、俺が殺されてた。

ハニー　トライアドだけじゃない。街中が狂い始めてる。オノのとこがやられ、ミヤジマが壊滅してからというもの、鍋の中みたいにぐつぐつ煮え立ってる・・・　ねーちゃん、ほんとにすまなかった。これ以上迷惑かけられないから・・・　おい、行くぞ、チェリー・・・

と、ハニー、チェリーを立たせようとするが、女がそれを制す。

女　　(ハニーの肩に手を置き)待ちな・・・

女、ハニーの手から拳銃を奪い、戸口に向かう。
隙間からそとの様子を伺い・・・

女　　・・・逃げるか、それとも戦って死ぬか。・・・仕方ないね、一緒に逃げよう。

ハニー　ちょっと待てよ、ねーちゃん。この件はあんたに関係ないだろっ。

女　　一蓮托生だろ・・・

チェリー　でも、ピンクのワニさんは？

女　　ぞーすい屋も店仕舞いのときが来たんだよ。

ハニー　ぞーすい屋？　ライブハウスだろう？

女　　五年も昔の話だろ、それ？

ハニー　・・・俺はここで、もう一度、ステージに立ちたかった。チェリーとチャミーと、Malformed apes でさ・・・　だから・・・

女　　ハニー、どうにかなるよ。生きてさえいれば・・・　ほとぼりが冷めたら、私がうまくやるよ。まかしときな。さあ、行くよ。

ハニー　行くって？

女　　ER21 地区。あんたたちの庭だろ？

ハニー　チェリー、ねーちゃんと一緒に、あのお宝のとこに行け。

女　　あんたは？

ハニー　チャーミーを連れていく。奴にも火の粉がふりかかるだろう？

女　　あんたがうろつくのは危ない。わたしが・・・

ハニー　ねーちゃんはあの場所を知らない。

ハニー、立ち上がり、女の手から拳銃を受け取るが・・・
手のひらの銃をしばし見つめ、再び女の手に握らせる。

女　　ハニー・・・
ハニー　大丈夫。俺は逃げ足だけは速いから・・・　ねーちゃん、チェリーを頼んだぞ。

ハニー、チャーミーのもとへと駆け出していく・・・

女　　チェリー、行けそうかい？
チェリー　鼻血は止まったみたいだ・・・

女、テーブルの奥からもう一丁の拳銃を取り出し、マガジンを引き抜き確かめた後、銃把にたたき込む。それをチェリーに渡し・・・

女　　裏口から出よう・・・

その言葉を受け、チェリーが立ち上がる・・・
と、戸口でブリキ缶が転がったような轟音！
二人銃口を戸口に向ける。
と、転がり込んでくる小僧。
次いで、兄が登場する・・・

女　　(銃口を外し)どうした？
小僧　　ゼンジーが・・・
兄　　ゼンジーが殺されてた。こいつが発見したんだ・・・
小僧　　ゼンジーが部屋の中で血だらけになってて、大切な小箱が落ちてて・・・ぼく、ゼンジーに天使の羽を見せてもらおうと・・・
女　　あの男だ。イレイズ・・・
兄　　イレイズ？
女　　消去する者。そう呼ばれてる・・・　ゼンジーの居場所を探りに来たんだよ。
兄　　どうして？
女　　ゼンジー商会の技術が必要なんだっていってた・・・
兄　　何のために？
女　　扉を開くためだって・・・　この街と地上を隔てる扉・・・
兄　　！
チェリー　あほか、そいつ？
女　　そのためにバイオコンピュータとコンタクトする方法を知りたいって・・・
兄　　バイオコンピュータ・・・　KITAZAC？　そいつにアクセスしようと？

女　　知らない。でも・・・
チェリー　ゼンジーのところじゃ、きっと、どうにもならなかったろ。だとすりゃ、次は・・・
兄　　ただひとつの現存するバイオチップ・・・
女　　チャーミー・・・
チェリー　でも、そいつはチャーミーの居場所を知らねえだろ？

小僧、何か気になったのか、戸口へ向かう。

小僧　　外が騒がしくなってきてる・・・
チェリー　トライアドか？
女　　裏から逃げよう。
兄　　何故？
女　　理由は後だ。死にたくなっかったら、チェリーを連れて早く逃げるんだよ。(小僧に)さあ、お兄ちゃんとチェリーと一緒に早く逃げるんだ・・・
小僧　　ゼンジーはどうするの？
女　　・・・さあ、早く！　チェリー、三人で行って。
チェリー　ねーちゃんは？
女　　チャーミーのところへ・・・　ハニーと合流して例の場所へ向かうから・・・
小僧　　ゼンジーは？
女　　(小僧に)チェリーと行くんだ・・・　さあ！

女は立ち上がり、皆を促す。
三人を裏口から出した後、握り締めた拳銃を見つめ決心したように駆け出す。
暗転。

21 Dreg at the bottom of her heart

舞台の上にチャーミー。ハニーが駆け込んでくる。

ハニー　チャーミー。とんでもねえことになっちまった。訳は後で話すから、今すぐ俺と一緒に・・・（チャーミーの雰囲気がおかしいことに気付き)どうした、チャーミー？

舞台袖から、銃を構えたフィアスが登場する。そして、チャタバックスもそれに続く。

ハニー　フィアスか？　それにチャット・・・　一体何なんだよ、チャーミー？

鰓瀬が現れる。

ハニー　あんたは？
鰓瀬　彼にではなく、彼の腕にあるバイオチップに用があってね・・・　で、君は？
ハニー　誰だっていいだろ。チャーミーを連れていきたいんだ・・・　銃を下ろせよ、フィアス。
鰓瀬　フィアス。こいつは、君の知り合いか？
フィアス　・・・覚えがないね。
ハニー　フィアス、俺のことを・・・
チャーミ　こいつはもう昔のフィアスじゃない。単なる屠殺人なんだよ。
ハニー　チャーミー・・・
鰓瀬　(ハニーに)君には悪いが、彼を連れていきたいのだが・・・　扉を開くための鍵としてどうししても必要なんだ。
ハニー　扉を開く鍵？
鰓瀬　そう、彼の腕の中のバイオチップがそれを可能にする。
ハニー　一体全体こいつの腕が何処の扉の鍵だって言うんだい？
チャーミ　この街と外とを隔てる扉・・・
ハニー　外って？　地上か？
鰓瀬　そうだ。
ハニー　そんなもん開け放ったら、どうなると思う？　(チャーミーに)狂ってるのか、こいつ？
チャーミ　たぶん・・・
鰓瀬　人類が地下に閉じこもって百年。解放の日が近づいている。ヤオビクニ亡き今、その解放者は私だ。チャーミー、君は私の声を神に伝える依童(よりわら)といったところか・・・

鰓瀬、指を鳴らす。ハニーに向けられたフィアスの銃口は、しかし、火を吹かない・・・

鰓瀬　フィアス？
フィアス　・・・・・・
チャーミ　止めろ、フィアス。分かったよ。お前の言う通りにする・・・
ハニー　(チャーミーの前に歩み出て)待て、チャーミー。そんな奴の言うことなんか聞くな。
鰓瀬　フィアス、奴を撃て！

フィアスの引き金にかかった指に力がはいる。その刹那、チャタバックスがフィアスの銃を押さえつけ、首を横に振る。
自らも二挺の銃を引き抜く鰓瀬。一方をチャタバックス、他方をハニーに向ける・・・

ハニー　チャット・・・　俺のことが分かるのか？

チャタバックスの目がハニーを見つめている・・・

鰓瀬　何をしている、チャタバックス。さあ、ハニーにさよならを言うんだ・・・

鰓瀬が引き金を引き絞る。
ハニーが首をすくめる。銃声。しかし、それは鰓瀬の銃口より発したものではなかった。
鰓瀬の銃が弾かれたように床の上を転がる。
舞台後方に銃を構えた女が現れる。

女　それぐらいにしとけよ、イレイズ。
ハニー　ねーちゃん・・・
女　ハニーとチャーミーは連れていくよ。・・・フィアス、ゼンジー撃ったのあんただね？
フィアス　ああ。マガジンが空になるまで撃ったよ・・・
チャーミ　ゼンジーが？
女　・・・で、あんたの中で何かが軽くなったかい？
フィアス　なんだって？
女　心の中の澱(おり)がきれいさっぱりなくなったかい？
フィアス　恨みを晴らしたんだ・・・
女　誰の？
フィアス　グラッジの、チャットの、そして、あんたの・・・

女　　そして、きれいな心で、その「壊れかけ」と心中かい？　美しいねえ・・・　きっとあんたのシナリオ通りになるよ。そんな美談、世の中が放っておくわけないもの・・・　今、ここの外は大変なことになってるよ。どっかのバカがトライアドのどてっ腹に弾丸ひとつ打ち込んだのが引き金になって・・・　ER21 地区にあるっていう武器と弾薬の利権めぐって、憶測が憶測を呼び、誤解が誤解を呼び・・・　街中戦争さ。特にミヤジマのところの残党は自棄になってありったけの弾を方々に撃ち込んでる・・・　フィアス、今チャットと一緒に出て行ったら、いかにあんたらといえども苦戦するんじゃないか？　奴等は死ぬのを恐れてない。あんたらと同じようにね・・・

フィアス　あたしはあんたのために・・・

女　　違うよ、フィアス。

フィアス　・・・・・・

女　　さあ、行くよ。チェリー達が待ってる・・・

ハニー　　達？

女　　イチドーさんも一緒。流れでね・・・　もしかしたらあぶねーやくざもんが ER21 地区に入り始めてるかもしれない。急ぐよ。イレイズ、あんたも気を付けな。新参者のわりには人気もんだからさ・・・　じゃあな、フィアス、チャット・・・

女の目線が、フィアスと、チャタバックスと絡み合う。
すべてを断ち切るかのように視線を外し、ハニーとチャーミーとともに退場。

鰓瀬　　(ぽつりと)・・・一堂？　そう言ったか？　奴はそう言ったのか？　あの一堂か？　なあ、どうなんだ？　ER21 にいるのか、今そこにいるのか？　プログラム HOPE が起動したら、俺たちは ER21 の非常扉の前で出会う・・・　それは神の意志だ。そうだよな・・・

チャタバックスがフィアスに何かを告げようとする。しかし、フィアスはうなだれたままだ・・・

フィアス　チャット・・・

チャタバ　(必死に何かを伝えようとしている)・・・・・・

フィアス　？

チャタバ　(そこにいる・・・)

フィアス　なに？　そこに誰が？

チャタバ　(グラッジがそこに・・・)

フィアス　グラッジがそこに？

チャタバックスの身体を唐突に痙攣が襲い始める。

フィアス　チャットしっかり。今こいつを打ってやるから・・・

フィアス、圧力注射器を取り出し打とうとするが、チャタバックスがその手を払う。倒れ込むチャタバックス。
考え込んでいた鰓瀬がやおら近づき、チャタバックスを踏みつける。

鰓瀬　うるさい。静かにしろ。考えがまとまらないだろ。・・・一堂？　そうなのか？　時は今なのか？　プログラム HOPE 起動の・・・

鰓瀬、笑い声を上げ、そして、首に巻きつけたスロートマイクのスイッチを入れる。明滅する LED。

鰓瀬　聞こえるか？　プログラム HOPE の起動準備。これはシミュレーションではない。繰り返す。これはシミュレーションではない・・・

喜々として駆け出していく、鰓瀬。舞台の上にはフィアスとチャタバックス。

フィアス　チャット・・・　本当に薬はいいのかい？
チャタバ　（グラッジの・・・）
フィアス　何だって？
チャタバ　（グラッジの・・・）
フィアス　グラッジの・・・
チャタバ　（グラッジのギターが聞こえる・・・）
フィアス　グラッジのギターが、聞こえるって・・・　チャット・・・
チャタバ　（行かなきゃ、ステージに・・・）
フィアス　・・・・・・

フィアスが痙攣するチャタバックスをきつく抱き締める・・・
チャタバックスが腕を突き出し、声にならない叫び声を上げる・・・
暗転。

22 The final gig

小僧登場。次いでチェリーに肩をかした兄が登場する。

小僧　お兄ちゃん、チェリー、早く。こっちだよ。ねえ、この穴の向こう・・・　ほら目印のモグタンが置いてある・・・
兄　チェリー、大丈夫か？
チェリー　大丈夫だ。あんがと。どうにかこうにか、着いたな・・・　まるで迷路みたいだったろう？
兄　ああ。
小僧　お兄ちゃん、ぼくから通るよ・・・

小僧、穴を軽々とくぐり抜ける動作。

兄　チェリー、先に行ってくれ・・・

チェリー、頷き、穴をくぐる。

チェリー　さあ、今度はイチドーさんだ。

兄、どうにかこうにかくぐり抜ける。

チェリー　薄暗いが、目が慣れれば、どうってことはない。・・・ハニー達大丈夫かな？
兄　心配するな。ねーちゃんがついてるんだから・・・　（ふと、小僧に）おい、何処に行った？
小僧　ぼくはここだよ。
兄　あまり遠くに・・・
小僧　しっ、静かにして・・・　貝の中の人が何か言ってる・・・
兄　なんて言っているんだ？
小僧　うまく聞き取れない・・・　もっと、ぼく自身が集中しないとだめなんだ・・・

小僧、貝殻を耳にあて、瞳を閉じる・・・

チェリー　なんだ、「貝の中の人」って？　幻聴でも聞こえてるってわけ？
兄　そうかもしれない・・・　でも、もしかしたら・・・

チェリー　もしかしたら、何なんだい？

兄　中に小人が隠れているわけじゃなく、このエリアのどこかにある KITAZAC との通信用モジュール・・・

チェリー　こんな時に冗談か？

兄　・・・・・・

チェリー　じゃあ、KITAZAC は存在してるっていうの！　だったらチャーミーの腕も・・・

兄　だが、その話を聞くことが出来るのは、あの子だけだ・・・

チェリー　どうして？

兄　あの通信モジュールか、または、KITAZAC が壊滅的に壊れているか・・・　ほんとはすべてがあの子の幻聴なのか・・・

小僧　お兄ちゃん。ここの武器はね・・・　見えてきた・・・　遠い昔の戦争が・・・　この地下の街が出来たときに・・・　大きな争いがあったみたい・・・　ここにいた人と外の人が喧嘩してる・・・　でも、毒が流されて、この中に毒が流されて・・・　みんな・・・　その毒は匂いも、色も、なにもなくて・・・　でも、みんな・・・

チェリー　一体、何時の・・・

兄　それは外から入ってきたのか？

小僧　うん。

チェリー　事故か何かで、有害な外の空気が・・・

小僧　分からない・・・　でもこれは、すごい昔のお話・・・

チェリー　なあ、今の外の空気はどうなんだ？

兄　それは分からないんだ・・・

チェリー　どういうこと？

小僧　その人は今では目も見えないし、耳も聞こえない、匂いも味も・・・何も分からないから・・・

兄　もしそれが、KITAZAC だとしたら、外部センサーのすべてが破壊されているということだろう・・・

チェリー　小僧。そいつは KITAZAC なのか？　本当に KITAZAC なのか？

小僧　分からない・・・

チェリー　聞いてみればいいだろう！

小僧　だめ。「言葉」は通じない。通じるのは「思い」だけ・・・

兄　言葉ではなくイメージで対話している・・・

チェリー　？

小僧　お兄ちゃん・・・　感じるよ・・・

兄　何を？

小僧　海が近い・・・　だって、海の匂いで鼻の奥がジリジリするんだ・・・

舞台がいったん暗転する。
舞台後方の鰓瀬をスポットが浮かび上がらせる。
スロートマイクの電源を入れる鰓瀬。
後方に「ER21 地区のワイヤフレームのマップ」が表示される。

鰓瀬　今よりプログラム HOPE、最終コマンドブロックを起動する。
声　・・・最終確認オールクリア。ただし、ER21 地区侵入坑付近で暴動が勃発しています。
鰓瀬　やくざによる銃撃戦か？
声　はい。
鰓瀬　プログラム HOPE の実行に関しての銃撃による影響は？
声　阻害確率は 0.1%以下。
鰓瀬　よろしい。プログラム HOPE、最終コマンドブロック起動！
声　プログラム HOPE 起動。第 105 防火扉開錠。駆動モーターに通電。警告、第 105 防火扉、十秒後に完全解放します。ER21 地区 F61 扉に通電。開放開始・・・

鰓瀬への明かりが消灯する。
ER21 地区へ侵入して行く映像。次々に扉が開いていく・・・
舞台前方に駆け込んでくる、ハニー、チャーミー、そして女。

チャーミ　・・・ほんと迷路だな。
ハニー　だろ？　急げ。次はそこのひび割れくぐって・・・
女　(立ち止まり)ちょい待ち、ハニー。
ハニー　どうしたんだよ？
女　しっ。何か聞こえないかい？
ハニー　銃撃戦の音が近づいてる・・・
チャーミ　違う。鋼鉄製の扉がスライドする音だ！
女　奴等、扉を開いて侵入してきてる・・・
ハニー　ER21 は扉が開かねーから、迷路な訳だろ？
チャーミ　このままじゃ簡単に追いつかれちまう・・・
ハニー　トライアドにそんな科学力あるかあ？？
女　小首傾げてねえで、さあ急ぐよ！

こけつつも退場する三人。
兄らに明かり。

兄　　しっ。
チェリー　どうした？
兄　　何か聞こえる・・・
チェリー　何かって何？
兄　　(床に耳を付け)・・・振動、モーターの唸るような音。それから・・・(床から耳を放す)きしむ金属の音。ER21 の扉が・・・
チェリー　開き始めてるって言うの？
兄　　誰が・・・
チェリー　やくざ屋さんの仕業？
兄　　知らん。でも・・・　ER21 の扉が次々に開いていく・・・　ちょっと待て、まさか・・・　プログラム・・・
チェリー　おい、ハニー達があぶねえ！

穴にもぐり込み、戻っていこうとするチェリーを兄が制する。

兄　　今、動くのは危ない。ハニー達は絶対ここに来る。
チェリー　そんな！（穴に向かって叫ぶ）ハニー！
兄　　(ひとりごちて)そんなはずは・・・

暗転。
代わりに鰓瀬に明かり。

声　　・・・警告！　第 32 防火扉駆動系に物理的な異常。非常自爆システムを使用しますか？　なお、自爆システムは ER21 地区に少なからずの損傷を・・・
鰓瀬　　自爆システム使用。以後の障害に関しても同様の措置をとれ。
声　　周辺に住民の存在が確認できます。住民の退避措置の後・・・
鰓瀬　　ただの Under のやくざだ。市民ではない。十秒後に自爆システム起動！
声　　十秒後に自爆シークエンスを開始します・・・
鰓瀬　　わたしも今から ER21 に侵入する。プログラム HOPE の実行を再優先で行うこと。最後までな・・・　まあ、最終隔壁は開錠出来ぬと思うが・・・

鰓瀬、黒いコートの下から二挺のサブマシンガンを引き抜き、そして大股に退場する。
機械音が響く、「自爆シークエンス開始。」
暗転。そして爆音。

明転すると、兄ら、女らがそれぞれ舞台両翼でこけている・・・

兄　何だ今の？
チェリー　まさか、トライアドの奴等、ロケットランチャーでも持ってるんじゃないよな・・・
兄　(小僧に)大丈夫か？
小僧　びっ、びっくりした・・・

・

ハニー　・・・大丈夫か？　ねーちゃん、チャーミー。
チャーミ　生きてるみたいだ・・・
女　何だったんだい、今の？
ハニー　知るか・・・　でも、もうすぐのはずなんだ・・・　穴の横に目印にぶっ壊れたモグタンが・・・　くそ、すげー埃だな・・・
チャーミ　(前方を指さし)ハニー、あれ！　モグタンじゃねーか？
ハニー　ほんとだ！（と駆け出す）

・

チェリー　ほんと埃がスゲーや・・・　ハニー達大丈夫かな・・・

モグタンに駆け寄ったハニー、仲間を気遣い穴を覗き込んだチェリー、
同時に絶叫する！「穴が埋まってる！」
爆発の振動で穴が落磐したようだ・・・

小僧　今、ステレオで聞こえたよ。
チャーミ　小僧か？　この向こうか？
小僧　チャーミー？
チャーミ　そうだ。そっちは大丈夫か？
兄　大丈夫だ。チェリーもいる。そっちは？
チャーミ　ハニーもねーちゃんも無事だ。
チェリー　(兄に)・・・ちょっと手伝ってくれ、瓦礫を掻き出そう。
あに　ああ。
チェリー　そっちはどうだ？
ハニー　でけえレドンコンクリートの落磐がある。動かせそうにない・・・
チェリー　モグタンは？
ハニー　調べてみたが、ご臨終だ・・・　たがね使うしかねえな。
チェリー　たがねは？
ハニー　見付けたよ。今から掘る・・・

兄　　こっちでも何かたがねの代わりになるようなものを・・・

と、小僧とともに探しに行く。
兄はサーベルのようなナイフを、小僧はシャベルのようなものを持ってくる。
ハニーの打つたがねの音が響く・・・

兄　　チェリー、これで突いてみる・・・　瓦礫を掻き出してくれないか？
チェリー　分かった。
兄　　硬いがどうにかなりそうだ・・・
小僧　　ぼくも手伝う・・・
チェリー　すまないな・・・

少し離れてたっていた女がハニーを呼ぶ。

女　　銃弾の音が近くまで迫ってる・・・
ハニー　　え？
女　　と、扉が開きそうだよ！
ハニー　　なんだって！？
女　　(後退さって)こっちにあるのは拳銃一挺・・・　進退窮まったね。

扉がきしみながら開いていく・・・
寄り添うように固まる三人。
女は開きつつある扉に銃口を向けている・・・
壁の向こうから、チェリーが叫んでいる。
扉が開いていく・・・　銃声！　硝煙・・・
突き刺すような光・・・
光の向こうから、二つの影。
女の銃口が下がる。
二つの影はフィアスとチャタバックスである。

フィアス　・・・やっと追いついたね。
女　　・・・・・・
フィアス　もうすぐやってくるぜ。まだ、五、六十はいる・・・　ほとんど狂ってるよ。まっ、あたしたちが火付けたみたいなもんだけど・・・
女　　どうして？

フィアス　せっかくのお祭りだ。チャットがどうしても来たいってね・・・
チャタバ　(フィアス、グラッジのギターだ)
女　何て言ったんだい？
フィアス　グラッジのギターが聞こえるって・・・
女　グラッジの？
フィアス　ああ。・・・ハニーどうした？
ハニー　この岩盤の向こうにチェリーが・・・
チェリー　フィアスがいるのか？
ハニー　ああ。
フィアス　早く穴開けな。・・・ (マガジンを引き抜き重さを確かめ)持って一分半ってところだ。仕舞いにゃナパームグレネード使うしかない。へたすりゃここら一面火の海だ・・・ それまでに向こうに逃げてくれよ。
ハニー　一分半なんて無理だ！
フィアス　天下の Malformed Apes が泣き言いってるんじゃないよ！

チャーミーがゆっくりとプラスターを外す。

ハニー　なにしてる、チャーミー？
チャーミ　このライヴ、俺に任せろ・・・
ハニー　チャーミー、お前・・・
チャーミ　(たがねを受け取り)・・・ここで使わなきゃ、何のためのバイオデバイスだ？

その時、チャタバックスが一発の銃弾を撃ち放つ。

フィアス　もうおいでなすったかい。
チャーミ　奴等一人たりともこのドアから通すなよ。
フィアス　努力はする・・・ さあ、ライヴだぜ。チャット！
チャーミ　用意はいいか、ハニー、チェリー！

ハニー、チェリーが力強く頷く。
フィアスとチャタバックスが銃を構え、チャーミーの金づちが振り上げられる・・・
暗転。殺人的な鎚音！ いや、これはあの時のグラッジのリフだ。
明転すると、前方に向かってチャタバックスとフィアスが調子良く撃ちまくってる。
全弾撃ち尽くし。銃を次々に換えて・・・ チャーミーの刻むリズムに乗って・・・
前に立ったチャタバックスの足やわき腹を幾発の弾丸が貫通していっただろう？ そ

のつど足をふんばりチャタバックスを支えるフィアス。銃弾がフィアスの腕の肉をそぎ落とす。やがてすべてのマガジンが空になる・・・
女に明かりが差す。音が止む。

女　　チャット！　フィアス！

チャタバックスがデザートイーグルを引き抜き、フィアスが先端にナパーム・グレネードを装着する。グレネードを飛ばすための銃弾が一発だけ残されている。グレネードの表面で明滅する LED。It's a small world が流れだす。
一発の弾丸がチャタバックスの胸元に入り、フィアスの背中の肉と一緒に後方に飛びすさぶ。二人で、デザートイーグルを前方に向け発射しようとするが、もう腕が前方に持ち上げられそうにない・・・

フィアス　穴は空いたかい？
女　　もうすぐ！
フィアス　グレネードが向こうまで飛ばせねえ。ねーちゃん、早く逃げてくれ・・・
女　　フィアス！
フィアス　ねーちゃん・・・　あたし・・・
女　　フィアス？
フィアス　なんでも・・・ないよ・・・　死にたくなかったら早く行け！

チャタバックスの胸でグレネードを包み込むように掴むフィアス。
チャタバックスの黒いフェイスマスクが落ち、首筋から耳にかけての大きな傷があらわになる。それに触れるフィアス・・・

フィアス　チャット・・・
チャタバ　（すぐそこにグラッジがいる・・・）
フィアス　そうだね。グラッジがすぐそこにいる・・・

チャーミーの刻むリズムが高鳴っていく。まるで、ライヴのエンディングみたいに・・・
ゆっくりと暗転・・・
そして、唐突に痛いほどの沈黙。
炸裂音！　火柱があがる。誘爆による小爆発・・・
やがて、音が遠くなっていく・・・

23 God willing

舞台の上に女、兄、小僧、ハニー、チャーミー、そしてチェリー。
皆放心したように座っている。小僧は貝殻を耳に当てたまま目を閉じている。
眠っているのかもしれない・・・

ハニー　チャーミー、腕は？
チャーミ　まだ付いてるだろ？
チェリー　ハニー？
ハニー　ん？
チェリー　なんでもねえ・・・
兄　・・・(女に)なあ、ひとつ気にかかることがあるんだ。
女　なんだい？
兄　イレイズ・・・　隔壁を開けようとした男。そいつはどうしたんだ？
女　さあ？
兄　どんな男だった？
女　冷たい目をした男・・・　眉ひとつ動かさず、Under 中を引っ掻き回した・・・
兄　(ナイフで床を引っ掻きながら)実は・・・　昔ここに来たことがある。
女　昔？
兄　まだ City にいた頃の話だ。
女　City の人が何でこんな所まで？
兄　仕事で・・・
女　仕事？
兄　都市管理会議のディテクティブだった・・・
女　おやおや。そいつはお固いご職業で・・・
兄　・・・ここは地下都市の東の外れにあたり、また同時に都市の中でも一番地表に近いところでもあるんだ。すぐそこに、ER21 第五非常扉−外界に通じる最終隔壁がある・・・
女　その壁があれ？
兄　ああ。・・・今から五年前、ある若い二人がその隔壁を開けようとした。いや、開けようとしたのは、ひとつのプログラムだった・・・
女　どういうこと？
兄　若い二人はプログラムにより合成されたクローンだったんだ。
女　クローン？
兄　クローンだろうが人間だろうが、とにかくわたし達は隔壁の開放を阻止すべく、その二

人を射殺した・・・

女　私たち？

兄　その時わたしの他にもう一人のディテクティブがいた。鰓瀬・・・

女　えらせ・・・

兄　ローマ字にしてごらん・・・　何て読める？

女　イレイズ・・・

兄　「冷たい目をした男」と一緒だ。・・・さっき次々とこの地区の扉が開かれて行ったろう？あれは、トライアドがやったんじゃない。きっとプログラムだ。プログラム HOPE・・・　五年前に使われたのと同じプログラム・・・　それを起動できるのは鰓瀬だけだ・・・　鰓瀬はここにやってくる・・・

女　イレイズが？

兄　消えかけたナパームの炎を踏んで、奴がやってくる・・・

チェリー　・・・ねーちゃん？

女　何だい？

チェリー　火が下火になってきてる。壁も熱くないし・・・　そろそろ、戻らないか？　もしかしたら、トライアドのバカにぞーすい屋ぶっ壊されてるかもしれないけど・・・

女　チェリー、こっちへ・・・

チェリー　何だい？

女　(チェリーに拳銃を渡し)気を付けて帰るんだ。ハニーとチャーミーと小僧を連れて・・・

チェリー　ねーちゃんは？

女　いちどーさんと一緒にすぐ行くよ・・・

と、寝ていたはずの小僧が跳び起きる。

小僧　・・・誰か来るよ。

兄　奴だ！

女　イレイズかい？

ハニー　イレイズって！

女　チェリー、チャーミーを守るんだ！

女がチェリーをチャーミーの方へ突き飛ばしたその時、床に不快なモーターの振動が生じ・・・　そして、鋼鉄製の扉が悲鳴を上げながら開き始める・・・
轟音の中、扉の向こうに鰓瀬が現れる・・・

鰓瀬　(スロートマイクに手を伸ばし)・・・プログラム HOPE 最終コマンドブロック実行凍結。(ス

ロートマイクの電源を切る)・・・神はどうして貪欲に生け贄を欲するのか？　まるで命そのものが免罪符であるかのように人々はその魂を神に貢ぐのか？　分かるか、一堂？

兄　　え、鰓瀬・・・

鰓瀬　　一堂、久し振りだな・・・

兄　　また、この ER21 で出会うなんて・・・

鰓瀬　　俺たちはここでしか出会うことが出来なかったんだ。それが神の意志・・・　俺たちは隔壁を開き、外へ歩み出る・・・

兄　　たしかに君はプログラム HOPE を実行し、ここまでやって来た。そしてぼくと再び出会った・・・　それでいいだろう。

鰓瀬　　(笑って)一堂、いいわけないだろう？　お前は五年前の約束を忘れたのか？「みんなに海を見せる」って・・・

兄　　忘れた・・・

鰓瀬　　何故嘘をつく？　自ら足を撃ち抜いたのは、それを一生忘れないためだろう？

兄　　鰓瀬？　君だって分かっているはずだ。ここの外は・・・

鰓瀬　　どんな外だろうが、ここよりはましだろう。棺桶のような地下都市で、人々は皆黒い夢に苛まれている。ベッドはまるで火床のようで、汗みずくで転げ回るだけだ。毎夜毎夜眠らなければ贖罪されるとでも言うのか？　狂い始めてるんだ、この街は・・・　ER21 地区のここまでの道のり、死体の数を数えてくるがいい。毛ほどのことでも殺しあうんだ。扉を開こう・・・

兄　　鰓瀬、君は最終隔壁をひらけない。

鰓瀬　　何をいっている・・・

兄　　プログラム HOPE の最終行はシンタックス・エラーを含んでいる。

鰓瀬　　それはヤオビクニからみれば文法的なミスといえるだろう。だが、プログラムの最終行は KITAZAC に向けられたものだ。デジタル・コンピュータには理解できぬ命令。KITAZAC に仕込まれたパスワード。

兄　　「青い海を想起せよ」

鰓瀬　　そうだ。さすが一堂だ。起動設定項目など問題ではなかった。どう調べても・・・　プログラム HOPE は百年を経て自ら起動するようになっていた。外が浄化されていようが、いまいがね・・・　ただ、その扉の開放の最終決定権だけは KITAZAC に握られていた・・・

鰓瀬、大股でチャーミーに近づき、拳銃を押しつけ、引き寄せる。

鰓瀬　　彼の右腕に組み込まれているバイオチップはかの渋沢信太郎のクローン、ゼンジー

商会の信によって作られたものだ・・・　五年前この非常扉を開けようとした女の首の後ろに取りつけられたいたものとほぼ同様のもの。あの時と同様、ケーブルで非常扉の独立回線に接続する。

鰓瀬、チャーミーの腕からデジタルカウンターをもぎ取る。そしてケーブルを装着する。

鰓瀬　彼の腕のバイオチップがアップリンクとなり、彼の頭から「命令」をKITAZACに送る・・・どうだ？

兄　・・・・・・

鰓瀬　これで、扉は開く・・・

兄　（首を横に振る）

鰓瀬　じゃあ試してみよう。

兄　あのクローンに出来て、彼には絶対にできないことがある。いや、僕たちにも絶対にできない・・・

鰓瀬　？

兄　何故、プログラムの最終行がヤオビクニではなく KITAZAC に向けられたのかを考えてみろ。

鰓瀬　それはこの扉の管理の問題だ・・・　さあ、チャーミー。みんなを海へご招待だ。（拳銃を突きつけ）こう言うんだ「青い海を想起せよ」。

チャーミ　・・・青い海を想起せよ。

何も起こらない・・・

鰓瀬　もう一度。

チャーミ　青い海を想起せよ。

何も起こらない・・・

鰓瀬　もっと、繰り返せ！　心を込めてだ！

チャーミ　青い海を想起せよ。青い海を想起せよ。青い海を・・・

何も起こらない・・・

鰓瀬　何故だ！　何故何も起きない！

小僧　　それじゃ、だめだよ。開かないよ。貝殻の人も・・・
鰓瀬　　誰だこいつ？
小僧　　お兄ちゃんの弟・・・
鰓瀬　　お兄ちゃんって
小僧　　ねえ、お兄ちゃん・・・
鰓瀬　　うそをつくな！　一堂に弟などいない・・・　一堂、こんな小汚い白痴のガキがお前の弟だって？　何処で拾った？
小僧　　拾ったって・・・
鰓瀬　　寂しさのあまり、つい手を出したって訳か？
小僧　　何言ってるの、この人？
鰓瀬　　うるせえ！

鰓瀬、小僧に向けて弾丸を発射する。盾になろうとする女。だが弾丸は小僧の腹部に命中する。

女　　なんてことするんだい！

チェリー、拳銃を鰓瀬に向け、全弾発射。踊る鰓瀬。どうと倒れる・・・

女　　小僧！
小僧　　おねーちゃん・・・
女　　しっかりしな。大丈夫だから・・・
兄　　（小僧の身体に手を置き・・・）
小僧　　ぼくね・・・　ぼく・・・
兄　　どうした？
小僧　　ぼく、今、貝殻の中の人に触れた・・・　ぼく・・・
兄　　・・・心配ない。お兄ちゃんが、すぐ・・・　すぐ・・・

倒れた鰓瀬、たがが外れたように笑い出す。そして立ち上がり、コートの前を広げる。コートの下にはケブラージャケット。

鰓瀬　　今度は頭を狙うんだよ・・・

鰓瀬、銃をチェリーに・・・　その刹那、兄がナイフを鰓瀬のわきの下に突き立て、えぐるように引き抜く・・・　同時に銃声！　兄が撃たれたのだ。

ハニー　いちどーさん！

駆け寄るハニー。鰓瀬がそれを押し返す・・・　鰓瀬、兄に抱きついたまま・・・

鰓瀬　・・・脇腹か？　そいつは弱点だ・・・

兄　鰓瀬、すまん・・・

鰓瀬　何謝ってるんだよ・・・　なあ、教えてくれないか？　どうして扉は開かなかったんだ？　あのクローンに出来て、俺たちには絶対にできないことって？

兄　・・・「青い海を想起せよ」。それは、パスワードでもコマンドでもない・・・　文字通りの意味なんだ。

鰓瀬　文字通り？

兄　それは「青い海」を思い出すこと・・・　プログラム HOPE の最後のコマンドラインは KITAZAC と物理的に繋がるだけでは実行できない。だってそれはデジタル・コンピュータではないから・・・　KITAZAC を動かすのは命令語ではなく、言葉ではなく、それは「心象」つまり「心」なんだ・・・　「青い海」を思い出す。その思いが伝えられる・・・　KITAZAC がそれを認めれば、扉が開く・・・

鰓瀬　そうか、そういうことか・・・

兄　そうだ、鰓瀬。僕らはだれも海の記憶を持っていない・・・　だから、もう開かない。五年前、僕らはここであのクローンを抹殺した。でも、その時抹殺されたのは僕ら人類の未来だったのかもしれない。

鰓瀬、ゆっくりと滑るように倒れていく。

鰓瀬　なあ、どうしてプログラムの最後にそんなものがついているのかな・・・

兄　この都市を造り、環境浄化システムを設計し、ヤオビクニの作者である渋沢信太郎は、プログラム HOPE の最後で、作り上げたクローンが百年前の自分達と同じように「心」を持ち得ているか、KITAZAC と繋げることで、確かめようとしたんじゃないかな。彼らを形作る遺伝情報は「悲しみ」を記憶しない。無垢な脳髄に送り込まれる膨大な記憶情報も「心」までは保存できない。しかし、コード化されたその情報が総体としてクローンを人として完成させ得るのか？　0と1からなるバイナリ・コードの行間に込められた、数式では表しきれない「尽きせぬ思い」がそのクローンにも伝わっているのか？　「青い海を想起せよ」という一文で検証しようとしたんだ。分かるかい鰓瀬？　KITAZAC は心で繋がるコンピュータだ。クローンがよくできただけの人形であったなら、決して外へ出ることはなかった。　・・・鰓瀬？

鰓瀬の呼吸はすでに停止している。

兄　　鰓瀬！

兄、鰓瀬におおいかぶさるように倒れ込む・・・

兄　　鰓瀬・・・　扉を開けることが出来ない僕らは・・・　外に出ることの出来ない僕らは・・・心のないただの人形なのかい？　僕らは何時心を失った？　鰓瀬・・・　僕らは・・・

小僧　　お兄ちゃん・・・　何処？

女、小僧を兄のところまで運ぶ。小僧兄と手を握り・・・

小僧　　ぼく・・・　貝殻の中の人に触れたよ・・・　ほんとだよ・・・　ぼく一緒に海を見たよ。ぼくの目を通して、貝殻の中の人も海を見たって・・・

女、兄のまぶたを閉じてやる。
前方に向かい走り出すハニー。隔壁を殴る。

ハニー　　開けろよ、畜生！　これで終わりかよ。KITAZAC だか何だか知らねえが、何様のつもりだ！　こんだけ骸並べたんだ！　どうにかしろ！　ここまで来て、また棺桶の中にもどれって言うのか！　有害物質だろうが、放射線だろうが・・・　そん時は、あきらめる。でも、チャンスくれたっていいじゃねえか？　俺は海のことなんざ知らねえが、でも、心は持ってる。だから・・・

崩れ落ちるハニー。

小僧　　ハニー、大丈夫。ぼく、今受け入れてもらったよ・・・

その言葉を受け、床から突き上げるような振動がわき起こる。
地響き。明滅する明かり。そして、ふっと消える・・・

24 Daybreak...

暗転。
うすい明かりが女を照らす。

女　・・・非常灯が消え、警報が不意に止む。拍子抜けの沈黙。と、底から突き上げるような振動に足をすくわれ、わたしはその場に倒れ込む。目の前の空気が狂ったように振動している。いや、振動しているのは前方の大きな壁だ。闇の中でもはっきりと分かる。巨大な隔壁が開こうとしているんだ。百年間眠り続けた巨人が今、目覚める。萎えた筋肉に血を注ぎ込み、不器用に錆び付いた関節を動かそうとしている。隔壁の発する振動はさらに強く、そして不快なまでに高まっていく。まるで奥歯が次々と浮き上がり抜け落ちていくかのよう・・・　暗やみの中、わたしの手があの子の身体に触れる。まわりの振動とは明らかに違う震えがあの子から伝わってくる。体温が急速に下がり始めてる。わたしはあの子を引き寄せ強く抱き締める。隔壁の振動が破壊的なまでに高まる。コンクリートの破片がばらばらと落ちて、跳ね返り、わたしの手や顔を叩く。と、驚くほどの地響き・・・大きな塊がわたしのすぐ前に倒れ込んできたんだろう。埃が舞う。わたしは目を閉じ、何度もむせ返る・・・　その時だった。あの子が何か呟いた・・・

小僧　(微かな声で)ひ・ら・く・よ・・・

女　なに？

小僧　(幾分はっきりと)ひらくよ・・・

錆び付いた金属があげる耳障りな音。

チェリー　ハニー、開いてく・・・　開いてくよ！

女　・・・隔壁が轟音とともに開き始める。棺桶の蓋が開く・・・　擦れ合う金属の悲鳴。まるで断末魔の叫びさながらに。そう、それはまさに人類の断末魔かもしれない・・・　隙間から、吹き込んでくる風。塩気を含んだ湿ったその臭いは、黒い夢の中のそれと同じだった・・・　遠くから伝わってくる聞き覚えのある音。いくつものスコップでかけられる土が棺桶の蓋を鳴らす音。ざざざっ、ざざっ・・・　わたしはやはり埋葬されるのだ。わたしは黒い夢の中にいる・・・　あの子が腕の中でむずかるように身体をよじり、そして右腕を、人形を硬く握り締めたその手を、隔壁の隙間に向かって突き出す。わたしは小僧を抱えて、外に向かって歩き出す・・・

チャーミ　ねーちゃん、あぶねえよ。その外は・・・

女　・・・まったくの暗闇。塩気を含んだ湿った風。あの音が、駆けられる土の音が、四方か

らわたしを責め立てる・・・

ハニー　止まれよ、ねーちゃん。畜生、行くぞ、チャーミー。

ハニー、チャーミーに肩を貸したまま、ねーちゃんを追って外へ出る。

チェリー　ハニー、待てって・・・ くそっ！ （と、彼らを追う）

女　・・・瓦礫、ガラスの破片、それらを踏みしだいて、わたしは前進する。より暗い、闇の中心にむかって・・・ むせ返るような臭いに、鼻の奥がジリジリし始めてる・・・

チャーミ　なんなんだ？ この臭いは？

チェリー　なんの音、これ？

ハニー　分からねえ・・・ なあ、これが外なのかよ？ 真っ暗じゃねーか！

チェリー　なんなんだよ、この音。何処から響いてくるんだ？

女　周期的にかけられる土の音。私自身の身体が腐りながらあげる臭気・・・ きっと、ここは黒い夢の中。わたしは生きながら埋葬される・・・

小僧　・・・おねえちゃん？

女　なんだい？

小僧　外に・・・ 外に出たんだね？

女　いいや、ここは黒い夢の中・・・

ハニー　ねーちゃん、早く戻ろう。チェリー、頼んだぞ！

ハニーの言葉に頷き、チェリーはねえちゃんに駆け寄ろうとするが・・・

女　チェリー、もう遅いよ・・・ 黒い夢かい？ ここは、黒い夢なのかい？

小僧を横たえ、ナイフを引き抜き、自分の首めがけ突き立てる・・・

ハニー　なにやってるんだ、ねーちゃん！

女　・・・・・・

突き立てたナイフに力がこもる。

ハニー　止めろって言ってるだろ。

チェリー　もういいじゃねえか・・・ どうせ、もう終わりなんだ。こうなる運命だったんだ・・・ みんな死に忘れてただけだ・・・ 気付いてただろ、そんなこと？

女　・・・棺桶のふたは開いてなんかいないんだ。わたしは今、黒い夢の中にいる。未だこ

こは棺桶の中なんだ・・・
あの時、Under へ通じるリフトの中で、あの男はわたしにこう言った。男はわたしの手を握っていた。冷たい手だった・・・ わたしはもう一方の手に人形を握り締めていた。きつく、血が止まるほどきつく・・・ なぜかとても不安だったから・・・ 「パパ、何処に行くの？」わたしはその男に聞いた。男はこちらを振り向きもせず、こう言った。「・・・死に場所だ」消え入りそうな声で、たしかにそう言った・・・ 「死に場所」、わたしはやっと辿り着いた・・・ あの男も、グラッジも、誰も連れて行ってくれなかったその場所へ。
・・・私自身がゆっくりと腐りながらあげる塩気を含んだ湿った臭気、そして、土が棺桶の蓋を鳴らす音。ざざざっ、ざざっ・・・ 四方八方から周期的に苛むように響きわたるそれは、まるで・・・ まるで・・・

小僧　・・・小さな貝殻が教えてくれた。聞かせてくれた・・・
女　？（小僧を見つめる）
小僧　おねーちゃん。これがそれだよ。海の調べ・・・
女　海・・・
小僧　もうすぐだよ。もうすぐ・・・
女　？

女の握るナイフの刃が淡く金色に輝き出す・・・ 不思議そうにそれを見つめる女。ハニーもそれに気付き息を飲む。

小僧　登ってくるよ・・・
チャーミ　(遥か前方を指さし)おい、あれ・・・

ナイフの金色が強くなっている。でも、それはナイフ自身が光っているわけではない・・・
全員の目が遥か前方へ向けられる。

チェリー　なんだ、一体・・・
ハニー　きらきら光ってる。金色に光ってやがる・・・
小僧　パップ君が言ってただろ？ 海だよ・・・ それに、見て、光が溢れてる。ここは光の中だよ・・・

小僧が握り締めたパップ君を女の方へゆっくりと差し出す。
ナイフを握る腕から力が抜け、女はナイフを地べたに落とす。
波の音がする。海の匂いが溢れる。もう暗闇ではない。

差し出された人形を受け取り、女は自分の胸に押しつける・・・

小僧　　ぼくらは辿り着いたんだ・・・

太陽がゆっくりと水平線から登ってくる。
輝きは更に増し、海面を、そして無数のガラスの破片が散らばるその海岸を金色に輝かせる。
目も眩むほどに・・・

from Under the Junk Metal −the 2nd ed.−（完）
そして・・・ ″Junk Metal″シリーズが完結する。

公演記録（初演）

二〇〇〇年六月十六日～二十日　池袋シアターグリーン

作・はなださとし
演出・Ｍ＆Ａ

出演
女・村山直子　兄・木村淳　小僧・原麻利子　鰓瀬・山口浩正　チャーミー・深澤幸太　ハニー・高橋彰規則　チェリー・八尾光弘　ゼンジー・川上琢史　フィアス・羽鳥友子　チャタバックス・花田智　ミヤジマ興産契約社員・鈴木サエ子＆平山月子　マカベ・木村淳　ミヤジマ・川上琢史　少女（映像）・近藤史織

スタッフ
照明・皆川紀子　舞台美術・Ｄ・Ｇ工房　衣装・「かも組」 小道具・摂津工房　映像・千葉敬介　チラシ画・種滋比古　音楽・成井輝光　オペレーターズ・すずきこーた・近藤澄江